

阪大 ー地域に生き世界に伸びるー

NOW



OSAKA UNIVERSITY

2009

10

No.113



トピックス

水都大阪2009記念シンポジウム

「遊びをせんとや生まれけむー水都大阪の再生」

クローズアップ

大阪大学オープンコースウェア

知的社会基盤のための「知のネットワーク」づくり

2009 10月号
No. 113

目次

トピックス	2
クローズアップ	4
役員室だより	8
ナウスPECIAL	16
キャンパスニュース	18
表彰等	38
人事	40
訃報	44
インフォメーション	45
海外拠点だより	52
交流協定大学	54
クラブ&サークル	55
トピックス	56



表紙写真：前栽（適塾）

適塾1階部分にある、12畳半の書院風客座敷から眺める緑豊かな中庭です。表紙のカラーは10月に咲くキンモクセイをイメージしたものとなっています。

表紙デザイン：株式会社ココティエ

水の都・大阪の復興を広く伝えるため 「遊びをせんとや生まれけむ」

大阪大学が水都2009実行委員会と力



の国際シンポジウム 水都大阪の再生」 を合わせて開催へ！



水都大阪の復興を目指すシンボルイベント「水都大阪2009」が8月22日(土)から10月12日(月・祝)まで開催されました。これを記念して9月22日(火・祝)、大阪大学と水都大阪2009実行委員会の主催による国際シンポジウム「遊びをせんとや生まれけむ - 水都大阪の再生」を中之島のリーガロイヤルホテルにおいて、一般の方々約300名の参加を得て開催しました。

シンポジウムのタイトル「遊びをせんとや生まれけむ」は、『梁塵秘抄』のよく知られた歌に由来し、「水都大阪2009」は、水の回廊を舞台に市内各所で展開される様々なイベントやワークショップによって、人が都市や川と遊び戯れ、さまざま感覚を開き、磨き、都市に「遊びの文化」のエネルギーを生み出そうとする壮大な祭りであると捉え、情報、記号、流行、スピードに対して、五感、身体を大切に人間社会構築のため「遊び」をキーワードに開催したものです。



このシンポジウムでは、大阪の都市力の向上と発信を目指すことを目的に、大阪の歴史・都市・文化の研究者、河川や環境の専門家、大阪を拠点に世界的に活躍するアーティストが国内外より一堂に会し、この「水都大阪」の意義を多様な角度から検証しました。シンポジウムは、セッション1「河港・大阪と市民社会」、セッション2「大阪の市民力・文化力 アートが都市をかきまぜる！」の二部構成で、本学鷺田清一総長や平松邦夫大阪市長を始めとする本学の文系、理工系の多くの教授並びにアーティストなど24人が、水都として大阪の歴史、文化、交流等をテーマに語り合いました。

大阪大学オープンコースウェア

知的社会基盤のための「知のネットワーク」づくり

岸野文郎
竹村治雄

情報科学研究科教授
サイバーメディアセンターセンター長・教授

教育支援の一環として、講義資料などがデジタルコンテンツ化され、「知の拠点」である大学に蓄積されています。OCWはこれら電子版の講義資料をインターネットで公開するものであり、教育に関する共有財を世界的に作ろうとする社会貢献の側面も有しています。大阪大学の特色をアピールすることができ、本学の「地域に生き世界に伸びる」という基本理念を具現化するものと考えています。

◆オープンコースウェア (OCW) とは

OCWとはOpen Coursewareの略称で、コースウェア、つまり大学などで正規に提供される講義とその関連資料などを、インターネットを通して無償公開する（オープン）ことです。OCWの動きは、米国マサチューセッツ工科大学（MIT）で、複数の研究助成財団の協力を得て2001年にスタートしました。MITのOCWでは、現在までに、公開可能なほぼ全ての講義が公開されています。OCWの動きは、教育に関する共有財を世界的に作ることを目的としたOER運動（Open Educational Resource Movement）の一つとして捉えることができます。MITでのOCW公開の程度は千差万別で、シラバスと簡単な講義内容を公開しているものから、講義で使用するPPTも公開したり、講義風景を録画して公開しているものもあります。OCWは単位や学位を授与するものではなく、大学にとっては世界中からMITで学びたいとする学生を集めるのに効果があるとのことです。MITの活動に注目した、スペイン、南米、中国の大学では、MITのOCWを自国語に翻訳する動きが見られました。日本では、2004年にMITから日本の主要大学にOCW活動が紹介され、様々な議論の結果、大阪大学、東京大学、京都大学、東京工業大学、早稲田大学、慶應義塾大学の六大学が、2005年5月に日本OCW連絡会を発足させ、同時に授業教材の公開を開始しました。その後、日本OCW連絡会は、2006年4月には日本オープンコースウェアコンソーシアム（JOCW）へと発展し、日本におけるOCW活動を展開する母体として機能しています。本学は京都大学、慶応大学などと共に幹事校の一つとして、その責務を担っています。

大阪大学オープンコースウェア-OUOCWのWebトップページは右図に示す通りで、そこでは、OCWをMITでの定義を参考に次のように紹介しています。

- ・大阪大学の講義資料の電子版です。
- ・利用に、いかなる登録も必要としません。
- ・大阪大学の単位や学位の授与はありません。

教材の著作権は原著者が所持しますが、著作権表示がなされ、非営利目的のためであれば、改変を含めて自由に利用することが認められています。本学は、教材を提供する教員から本

条件の下で教材をOCWサイトで配布することを許諾されています。

本学においては、このOCW活動を教育・情報室が推進する全学規模e-learning環境基盤整備事業の一環として位置づけ、同事業のOCW担当チームが運営にあたり、現在（2009年9月）までに37コースが掲載されています。その内、動画を含むコースは6コースで、増加の傾向にあります。また、活動状況は情報基盤委員会内に設置された、教育情報化ワーキンググループで報告され、今後の活動方針等が全学的に議論されています。

以下では、大阪大学におけるOCW活動の現状を紹介すると共に、国内外のOCW活動についても現状を報告します。

大阪大学 OpenCourseWare

大阪大学 Open Courseware はどのようなものか

大阪大学は、地域に根ざし、世界に開かれた大学として、国際化を推進する。その一環として、本学の教育資源を広く公開し、世界の大学と共有することを目的として、Open Courseware (OCW) を推進している。本学は、2004年にMITから日本の主要大学にOCW活動が紹介され、様々な議論の結果、大阪大学、東京大学、京都大学、東京工業大学、早稲田大学、慶應義塾大学の六大学が、2005年5月に日本OCW連絡会を発足させ、同時に授業教材の公開を開始しました。その後、日本OCW連絡会は、2006年4月には日本オープンコースウェアコンソーシアム（JOCW）へと発展し、日本におけるOCW活動を展開する母体として機能しています。本学は京都大学、慶応大学などと共に幹事校の一つとして、その責務を担っています。

大阪大学オープンコースウェア-OUOCWのWebトップページは右図に示す通りで、そこでは、OCWをMITでの定義を参考に次のように紹介しています。

- ・大阪大学の講義資料の電子版です。
- ・利用に、いかなる登録も必要としません。
- ・大阪大学の単位や学位の授与はありません。

教材の著作権は原著者が所持しますが、著作権表示がなされ、非営利目的のためであれば、改変を含めて自由に利用することが認められています。本学は、教材を提供する教員から本

大阪大学OCWトップページ
http://ocw.osaka-u.ac.jp/



◆大阪大学OCWの意義、そして大阪大学のモットー

一般にOCW活動は、様々な目的を持ち、これを一意に定めることは困難です。しかし、OCW活動を社会貢献活動として捉えた場合は、「知の集積拠点」である大学がその蓄積された知の典型的な体系化された情報である「講義資料」の公開を通じて、社会に貢献することが目的であると言えます。インターネットアクセス環境さえあれば、大阪大学の教育資産にアクセスが可能であり、様々な形でこれらを利用することができます。

一方、本学で学ぶことを検討している高校生や留学生にとっては、入学前に大阪大学での教育内容の一部を知ることができる資料として活用することが可能です。英語の教材の拡充が出来れば、グローバル30などのプログラムで本学への進学を希望する留学生にとっても貴重な資料とすることができます。在校生にとっても講義を選択する際の参考資料として用いることが出来ます。加えて、本学の卒業生にとっても、卒業後の大阪大学のアクティビティを知る一つの方法ですし、母校の社会貢献活動を通じて本学への関心を深められる可能性もあります。実際にMITのOCWへは、卒業生からの寄付も寄せられていると報告されています。

OER運動は、教育に関する教育資源を広く公開することで、社会に貢献し、教育へのアクセスが制限を受ける国々に対して支援することが一義的な目的と考えられますが、OCW活動をそれに加えて、多くの大学が自らの教育に用いられる教材を公開することで、大学の特色ある教育を広報する意味合いもあります。一方では、多くの大学がOCWとして教材を公開することで、OER運動として世界に貢献できることも、間違いありません。

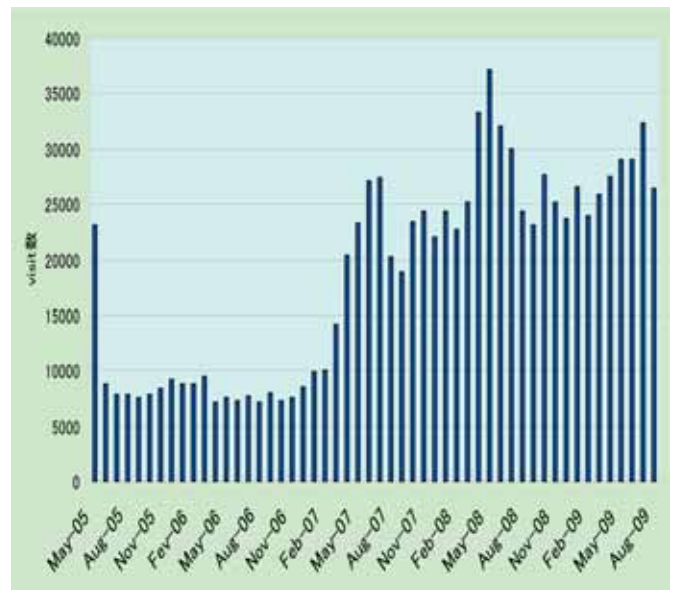
総じて、大阪大学OCW活動は本学の知名度のさらなる向上、また向学心旺盛な学生への本学への興味、関心を高めることに繋がると期待でき、大阪大学のモットーである「地域に生き、世界に伸びる」、この基本理念の具現化の一つでもあります。

◆大阪大学OCWの現状

OCW活動が有効に機能しているかどうかを検証することは、インターネットでの教材配布という性質上利用者のモニタリングが出来ず、容易ではありません。現在は、大阪大学OCWへのアクセス状況をモニタリングしています。具体的には、30分以内の同一インターネットアドレス（IPアドレス）からのアクセスを1回と数えるVISITという単位を用いてのアクセス回数、教材ごとのアクセス状況、IPアドレスから解析される国別のアクセス状況などを集計しています。図2は大阪大学OCWのアクセス数の推移を示しており、最近では毎月3万VISIT弱、年間にすると30万程度のアクセスがあります。毎月約3万前後のVISIT数のうち、3分の2は国内から、3分の1は海外（台湾、中国はじめ50ヶ国）からのアクセスです。また、阪大OCWのページの一部は台湾のボランティアグルー

プによって中国語に翻訳され、このグループのWebページで公開されています。

授業資料ごとのアクセスでは、集積回路やバイオテクノロジーなどの工学系の需要が多いようですが、一部文系教材にも需要が見られます。多いものでは、年間5万回以上ダウンロードされている教材もあります。また、教材提供者の教員からは、「教科書の販売数増に寄与していると思われる」との声や、「サイトに掲載したことにより講演依頼があった」との声も寄せられています。



大阪大学OCWのアクセス状況の推移

◆国内外のOCW活動の沿革とOUOCW



日本でのOCW活動は、2004年の夏からの何度かの準備会合を経て、2005年5月、六大学によるOCWの公開の日本オープンコースウェア連絡会の発足が原点となります。その後、参加大学が徐々に増える、協賛企業なども集まり、2006年4月には、日本オープンコースウェアコンソーシアム（JOCW）が発足しました。2009年7月現在では20大学16機関がJOCWに加盟しています。定期的に総会、交流会、幹事会を開催し、日本におけるOCWの普及、広報のための意見交換や情報交換、そして活発な活動を行っています。



世界でのOCW活動は、MIT、ユタ州立大学等の北米の大学、中国、スペインの大学連合、JOCWなどが協力して推進しており、2006年4月には、2年以上の準備期間をかけたOCW国際コンソーシアムが発足しました。2008年3月に、アメリカ、マサチューセッツ州においてNPO法人となりました。現在では、32カ国、合計160の大学が加盟しています。日本からも、JOCW参加大学およびJOCWが加盟しており、日本からも理事会メンバーが出るなど積極的に活動に関与しています。

コンソーシアムの活動の主な目的は、OCW活動の普及のための活動と参加大学の間での情報交換ですが、昨年までは年2回、本年からは年1回のコンソーシアム総会を開催しています。大阪大学は、2006年4月に京都大学で開催されたコンソーシアムの会合の開催に協力しました。また、スペイン、メキシコ、アメリカで開催された会議にも出席し、世界のOCW活動に関する情報収集と本学での活動の紹介を行っています。

コンソーシアムでの情報交換とネットワークの形成が発端となり、本年11月には、第1回アジア地域OCWカンファレンスがKorea University韓国大学で開催されます。日本、韓国、中国、台湾、ベトナムを中心とするアジア地域のOCWC加盟大学が参加を予定しています。

◆コラム「大学の講義の公開」に関する意識調査

OCWは講義とその関連情報のインターネット上での無償公開活動であり、従来になかった活動ですので、インターネット利用者はどのように評価しているかは気になることです。そこで、JOCWとNTTレゾナント株式会社が、gooリサーチ登録モニターを対象にインターネットアンケートを行いました。

(最新調査日：2009年1月 総回答数：1200)

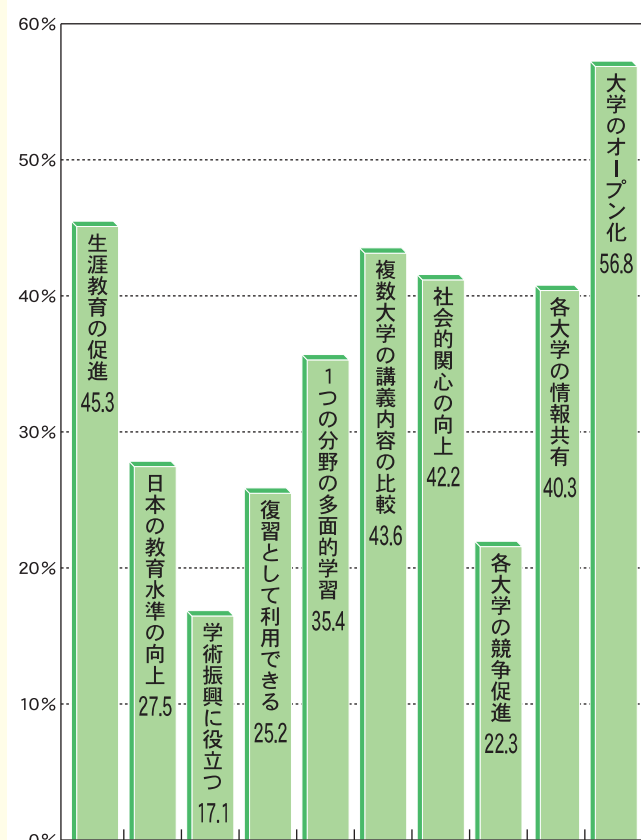
「大学の講義内容を公開することについて、どう思いますか？」との問には、非常に良い（33%）と良い（60%）を合わせると90%以上が好意的に捉えています。「大学の講義内容が見

られるWebサイトを利用したことがありますか？今後利用したいですか？」との問には、利用したことあるのは僅かに5%で、65%は利用したことはないが、今後利用したいと回答されています。30%は今後も利用したいとは思わないと回答されており、広く周知するとともに、より魅力的な資料を提供する必要があります。

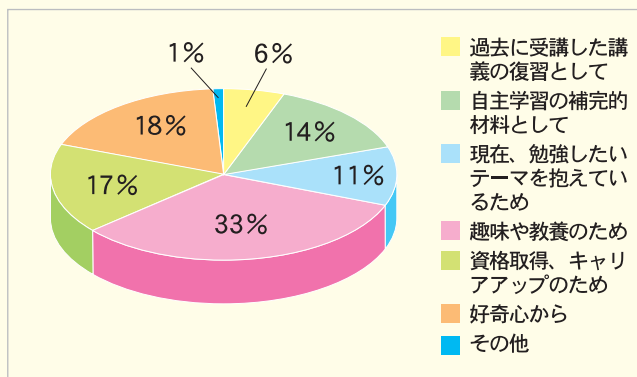
◆アンケートの総括

アンケート結果から、多くの人がインターネットを通じた大学の公開講義資料に肯定的で、それらを用いた学習に非常に興味を持っており、より実用性の高い学習を行いたいというニーズの強さが伺えます。今後、大学がこうした取り組みを行って行くにあたり、講義の質・量ともに充実したものが求められていくことが考えられます。

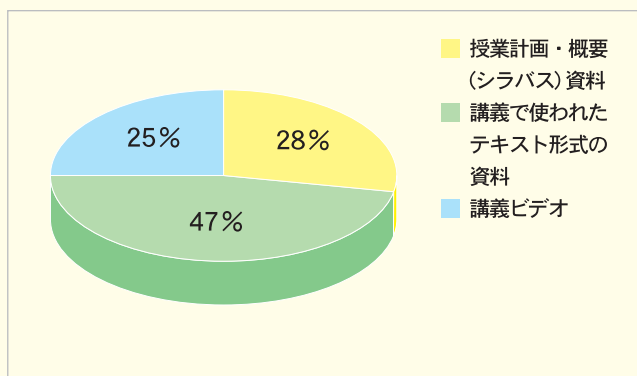
■大学が講義内容を公開することで、どのような社会的メリットがあると思いますか？



■利用目的は何ですか？



■欲しい講義素材は何ですか？



●講義資料が大阪大学OCWへアップロードされるまでの流れ

講義資料提供者が、承諾書の内容を確認し、同意のサインをします。

講義資料を、編集可能なファイル形式で提出します。

OCW担当者が講義資料を整理します。出典元が不明な図版、写真等があった場合、出典元についてメールで講義資料提供者に照会します。

出典元の情報（著書名、著者名、引用ページ番号、WebサイトのURL等）を講義提供者から回答します。

出典元情報を元に著作権処理を行います。その後、講義資料をPDF化して大阪大学OCWにアップロードします。その旨、講義資料提供者にも連絡します。

新しい講義資料が追加された事を大阪大学OCWのトップページでも紹介します。

* 教材提供者の作業は の箇所のみです。

* 都合によりプロセスが、多少前後することがあります。

●大阪大学OCWの今後と教材提供のお願い

OCW活動は、社会貢献活動であるとともに、様々な側面を持つユニークな取り組みと言えます。今後、教育の情報化が進展し、様々な教材がデジタルコンテンツ化されることで、より多くの教材を大阪大学OCWとして公開できる機会が得られると考えています。また、講義中心の授業においても、講義映像を収録し公開する方法もあり、これらについても今後は重点的に取り組む予定です。

教材を提供いただければ、本学の社会貢献に寄与いただけると共に、提供者の教育・研究内容を広くアピールでき、良い学生をリクルートできる可能性が教材提供者にもたらされます。また、多くの方に教材を提供いただければ、教材を通して教員間で教育に関する情報が共有でき、よりよい授業を実施するためのヒントとなる可能性があります。

無限の可能性を持つ大阪大学OCWでの講義資料の公開をぜひご検討ください。教材が公開されるまでの手順の概要を上記に示します。公開に当たって著作権法上必要な処理はOCW担当が行い、教材提供者の負担は最小となるよう配慮がなされています。また、利用者からの講義資料について質問があった場合、教員が直接回答する必要は原則ありません（回答することを禁止しているわけではありません）。また、公開教材の著作権は、原則教材作成者に属します。ぜひ、大阪大学OCWでの教材公開をご検討ください。教材公開のほかOCWに関するお問合せは、以下までお願いします。皆様のご協力をお願いいたします。

大阪大学OCWワーキングチーム

ouocw@ocw.osaka-u.ac.jp Tel : 06-6850-6828

岸野 文郎 (きのの ふみお)

NTTヒューマンインタフェース研究所 ATR通信システム研究所を経て、1996年7月大阪大学大学院工学研究科教授、2002年4月より同情報科学研究科教授。2003年8月大阪大学サイバーメディアセンター長併任（2005年8月まで）。2004年4月から教育・情報室員（2006年3月まで）、その後、情報基盤委員会委員として、大阪大学OCWに関わる。

竹村 治雄 (たけむら はるお)

1987年工学博士（大阪大学）取得、株式会社ATR主任研究員、奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科助教授を経て、2001年4月より大阪大学サイバーメディアセンター情報メディア教育研究部門教授。2007年より同センター、センター長。

●大阪大学OCW講義資料の実例



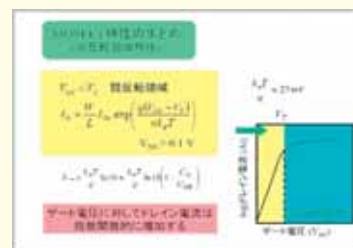
石黒浩教授 ロボット演劇「働く私」



総長からのビデオメッセージ
「教養とは何か」



湯浅邦弘教授
「大阪大学の歴史：懐徳堂から阪大文学部へ」



谷口研二教授「アナログ集積回路設計」



清川清准教授
「システムインターフェース設計論」

役員室だより

2009.10 Vol.32

大学の動き

第2回経営協議会を開催、豊中キャンパスを見学

今年度第2回経営協議会を9月15日(火)に総合図書館で開催しました。経営協議会はこれまで中之島センターで開催していましたが、学外委員にキャンパスの施設や環境などを直に見てもらう機会も必要との趣旨から、豊中キャンパスでの初の開催となりました。当日は学外委員9名が出席し、学生交流棟食堂「宙」で学生向けメニューの昼食を体験した後、イ号館の21世紀徳徳堂や講堂、待兼山修学館(総合学術博物館)を1時間余り熱心に見学しました。



総合学術博物館の見学(説明する江口館長(中央))

役員、総長補佐等の交代

8月26日及び10月2日付けで総長補佐、理事・副学長、室長の交代がありました。

杉本孝司(外国語学部長)	総長補佐(教育改革担当)	21.8.26 ~ 22.8.25
土井健史(薬学研究科教授)	理事・副学長(評価室長)	21.10.2 ~ 23.8.25
高杉英一(理事・副学長)	"(広報・社会学連携室長)	"

各室の検討状況

総合計画室

学内措置による教育研究組織の整備

新たな予算措置を伴わない学内措置による教育研究組織の整備として、9月の役員会で次の事項が承認されました。

- ・薬学研究科応用医療薬科学専攻の協力講座「伝統医薬解析学」の設置(平成22年4月1日)
- ・医学系研究科保健学専攻の画像誘導放射線治療学連携分野の設置(平成22年4月1日)

教育・情報室

第2期中期計画における教養教育と学生支援の重要性

現在、大阪大学では第2期中期目標期間に向けて、全学と部局の中期計画を策定しています。

去る6月5日に、文部科学大臣から「国立大学法人等の組織及び業務全般の見直し」について通知がありました。これは国立大学法人法に基づき、総務省の政策評価・独立行政法人評価委員会による勧告の方向性を踏まえ、国立大学法人評価委員会の意見を聴いた上で、文部科学大臣が第1期中期目標期間終了時に行う組織及び業務全般にわたる見直しの内容を決定したものです。これにより文部科学大臣は、第2期中期目標・中期計画がこの決定に沿った内容となるよう国立大学法人に求めるとともに、所要の措置を講じることになっています。

この通知では、学部・研究科・課程の組織の見直し、附属病院や附置研究所の機能の充実・強化、財務内容の改善、国民に対する情報提供など、いくつかの項目が重視されていますが、教育面では以下に引用する2点が重要です。

2(1) 教育研究の質の向上

教育研究の内容に関しては、各法人が大学評価・学位授与機構による教育研究組織ごとの現況分析等の結果を十分踏まえ、自主的に見直すよう努めることとする。また、教養教育について、その内容や実施体制を含めた改善に努めることとする。

2(1) 学生支援機能の充実・強化

経済的に困窮している学生等に対する支援の充実や、雇用情勢への対応を含めた就職支援の取組など学生支援機能の強化に努めることとする。

このように、教養教育と学生支援は、次期中期目標期間における大きなテーマになります。大阪大学でも、教養教育の展開と学生支援の充実を重視して第2期中期計画を定め実施していく予定です。

ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修の開催

9月9日(水)に豊中キャンパス、9月17日(木)に吹田キャンパスで、全学FD研修が実施されました。今年で3年目を迎えた今回は、9日に東京大学名誉教授の天野郁夫先生に「大学教員と大学教育」について、17日には東京大学名誉教授・前岐阜大学学長の黒木登志夫先生に「法人化は何をもたらしたか」についてご講演いただきました。ともに現在の国立大学が置かれた状況について、広い視点から明快に分析していただきました。

本年度の全学FD研修は時間を半日に圧縮し、研修後半の分科会は受講者による選択を可能としました。研修Aとして「共通教育賞受賞者の授業での取組事例」に基づくよりよい授業のための事例研究、研修Bとして「授業支援システム(WebCT)」「キャンパスライフにおける諸問題」「メンタルヘルス支援におけるポイント」についての実例的な講義、さらに研修Cとして参加型の授業を実際に体験できるワークショップという、3つの分科会を開催し、そこから選択していただきました。

本年度の参加者は豊中キャンパスで119名、吹田キャンパスで96名のほか、多数の職員も出席しました。上記の天野・黒木両先生の講演、研修Aの共通教育賞受賞者による取組事例の講義内容、また「大阪大学の教育目標」についての教育・情報担当理事による解説を、阪大ポータルサイトのWebCTを通じてビデオで視聴することができます。FD研修に参加できなかった方々も是非ご覧下さい。

ファカルティ・ディベロップメント(FD)とは、時たま行われる研修に義務的に参加することではなく、個々の教員が常時努めるべき教育能力の持続的開発のプロセスを意味します。今後もさまざまなFD活動を実施しますので、積極的にご参加いただくようお願いします。

「組織的な大学院教育改革推進プログラム」の採択

平成21年度「組織的な大学院教育改革推進プログラム」の審査結果が発表され、本学からは以下の2件が採択されました。

今年度は文部科学省により、「組織的な大学院教育改革推進プログラム」、「大学教育・学生支援推進事業（テーマA）」及び「国際化拠点整備事業（グローバル30）」の3プログラムを合わせて、一大学あたり3件までという制限が設けられました。本学は「国際化拠点整備事業（グローバル30）」に申請しなければならないことから、「組織的な大学院教育改革推進プログラム」と「大学教育・学生支援推進事業（テーマA）」について、学内から提出された9件に対して教育・情報室で厳正な審査を実施し、上記

の2件を選考し申請した結果、ともに採択されたものです。

同プログラムでは、全国で163件の申請の中から29件の事業が採択されましたが、2件の単独申請が採択されたのは本学のみでした。また、このプログラムの前身である「魅力ある大学院教育」イニシアティブ等を含め、本学は各年度とも全国で最多の採択件数となっています（17年度10件、18年度3件、19年度6件、20年度4件）。このような結果は、本学の各研究科が大学院教育の改革のために活発な取り組みを行い、大学院教育の実質化に努めていることの反映であると考えます。

申請部局	事業名称	取組実施担当者（代表者）
薬学研究科 （生命情報環境科学専攻）	健康環境リスクマネジメント専門家育成	土井健史 （高木達也）
基礎工学研究科 （システム創成専攻）	システム創成プロフェッショナルプログラム	占部伸二

ステューデント・ commons の開設

豊中キャンパスの大学教育実践センターで工事を進めてきた「ステューデント・commons」が、10月末に完成します。ステューデント・commonsは、旧自然科学棟（「教育研究棟Ⅰ」に改称予定）の1階～2階に設けられる学生相互また学生と教職員の交流のためのスペースで、学習成果発表、課外活動、学生同士の談話、教職員と学生の対話、留学生との交流、またさまざまなイベントなどに利用することができます。1階の開放型セミナー室では映像による教育活動等が可能となり、2階部分には、新型セミナーや新しい教育活動を展開するためのスペースが充実します。

11月9日（月）17：00より記念式典、続いて祝賀会

が開催されます。この週はステューデント・commonsのオープニング・ウィークとして、学生団体によるイベントのほか、大学教育実践センター、コミュニケーションデザイン・センター（CSCD）、グローバルコラボレーションセンター（GLOCOL）、学際融合教育研究センター、留学生センターによるさまざまなイベントも計画されています。これらの5つのセンターは、それぞれステューデント・commonsと同じ建物内、あるいは隣接棟に位置しています。このように大阪大学の全学に関わる教育を担うセンターが集結することにより、相互の連携が深まり、大阪大学としての個性ある充実した教育が行われることが期待されます。

学生交流学際融合教育セミナーの開催

去る4月に新設された学際融合教育研究センターによる、「学生交流学際融合教育セミナー」が10月2～3日と10月16～17日に開催されました。このセミナーは、学際的で複眼的な視野を開くために、大阪大学が全研究科の大学院生を対象に実施している学際融合教育プログラム（大学院高度副プログラム）を受講している、あるいは受講を目指している学生が一堂に会し、受講の動機や学びへの意欲を語り合う機会を作ろうとしたものです。豊中キャンパスとコスモスクエア国際交流センターを会場として実施

され、多数の学生と教職員が参加しました。

10月3日には一般市民の参加者も含めたオープンシンポジウムも開催され、10月16日には現在行われている学際融合教育の紹介と受講促進のための、「高度副プログラム見本市」が開かれました。



大学説明会（オープンキャンパス）の実施

8月5日(水)から20日(木)の間、学部ごとの大学説明会が開催され、学部紹介、施設の公開、模擬授業、在学生による説明等、各学部で企画したプログラムが実施されました。全国からきわめて多数の高校生や保護者、教員が集まり、全学合計では昨年より約2,100人増の18,753人の参加となりました。全国的に見ても大学説明会への参加が毎年増加し、その重要性が大きくなっています。大阪大学を志望する学生が大阪大学の教育研究と学生生活、またキャンパスや施設や設備について直接知る貴重な機会ですので、各部局におかれては大学説明会の一層の充実をお願いします。



外国語学部紹介講演



基礎工学部研究室見学

研究・産学連携室

平成22年度科学研究費補助金説明会の開催について

本学では、今年度も、吹田、豊中、箕面の3地区において説明会を開催し、科学研究費補助金制度の実務に関わっておられる本学教員から講演をいただきました。今年度は、より多面的に審査の傾向や対策等の情報に触れていただけるよう、吹田地区及び豊中地区においては、分野の異なる2名の教員による講演を実施し、例年以上に、多数の研究者の方々

から応募いただくことを目指しています。

なお、同説明会では、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づく競争的資金等の不正使用防止についての説明を併せて行うことで、本学教職員の不正使用防止への取り組みに係る理解増進と問題意識の向上を図っています。

科学研究費補助金獲得支援方策（研究計画調書の作成例掲載、相談員制度、チャレンジ支援プログラム）の実施

科学研究費補助金は、本学において学術研究を推進する上で重要な研究資金であるとの認識から、研究・産学連携室では、科学研究費補助金をより多く獲得するための推進方策について、アンケート調査の実施や応募・採択状況のデータ分析を行いながら種々

検討を行ってきたところですが、このたび、(1)研究計画調書の作成例（見本）の提示、(2)相談員制度の実施、(3)チャレンジ支援プログラムを試行的に実施することになりました。なお、今後もさらに種々の推進方策の実施に向けて検討してまいります。

(1)	研究計画調書の作成例（見本）の提示	以前より研究者（特に若手研究者）から多数要望がありました研究計画調書の閲覧について、平成21年度採択されました研究者の御厚意、御協力により、実際に昨年11月に提出され、採択されました研究計画調書を作成例（実例）として、本学ホームページ及び学内専用ポータルに掲載しました。
(2)	相談員制度の実施（試行）	科学研究費補助金審査委員や（独）日本学術振興会学術システム研究センター研究員等の経験者を中心に、全学の研究者を対象に研究計画調書の作成方法や研究計画の策定等の相談を受ける相談員を組織し、研究者の応募支援にあたります。
(3)	チャレンジ支援プログラムの実施（試行）	本来、基盤研究（A・B）や若手研究（S・A）のように、年間数百万円の研究費が必要であるにもかかわらず、科研費の採択率が低いことや重複申請の制限等により研究費がゼロになることをおそれて、基盤研究（C）や若手研究（B）に応募している中堅・若手研究者に対し、より大型の研究種目にチャレンジできるように、平成21年度が最終年度の「基盤研究（C）」又は「若手研究（B）」の交付を受けている研究者が、平成22年度に「基盤研究（B）」、「若手研究（S）」又は「若手研究（A）」と「挑戦的萌芽研究」の2課題以上を申請した場合、そのいずれも不採択となった場合には、平成22年度に研究費（80万円程度）を配分するチャレンジ支援プログラムを試行的に実施します。

評価室

このたび、高杉英一理事・副学長が広報・社会学連携室長に代われ、その後を受けて、評価室長に就任いたしました土井健史です。

大学における評価は、教育の改善、研究の発展、社会貢献の実現を目指すために行うものであり、社会に対する説明責任の遂行にあたるものと考えます。これまで築かれた大阪大学の評価体制は、高い評価を得ており、この体制を継承しつつ改善すべき点を改善していき、教職員に過剰な負担がかからないように進めたいと考えています。最終的に良い評価を得るように取り組んでいく所存です。価値を見出す評価をとおして、大学が目指す目標の達成とそれを越えた成果の創出に貢献できればと考えています。

各室、各部局のご協力をお願いするとともに、評価室の業務に一層のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

達成状況評価の実施

9月～10月にかけて、部局に対する達成状況評価を実施します。達成状況評価は、4月に提出された部局達成状況評価シートを用いて、評価室において達成状況評価書を作成することにより行います。

コメントは、教育、研究、その他の下に設けた小項目ごとに、平成20年度実績で特に努力が見られる点や根拠データの整備状況、平成20年度実績と平成21年度計画との整合性、中期計画の達成に向けての

観点から行います。

11月上旬には、評価結果を送付する予定です。

今年度は、第1期中期目標期間の最終年度です。今一度、各部局の中期目標・中期計画が達成できているかを確認する機会としていただくとともに、今後、部局の第2期中期目標・中期計画の策定・修正にも活かしていただければ幸いです。

財務室

教員向け財務関係説明会について

平成21年9月7日(月)にコンベンションセンターにおいて「教員向け財務関係説明会」を開催しました。

本説明会は、本学の財務について、その現状及び次期中期目標期間に向けた検討の状況などを教員に広く理解してもらうことを目的としたものであり、教員を対象としたものとして今年度初めて実施しました。

当日は、130名を超える出席者があり、門田財務

室長の挨拶に始まり、予算の概要について、財務の現状及び今後の対応、概算要求を行うにあたっての留意点、について説明が行われた後、活発な意見交換が行われました。

また、説明会後に実施したアンケートでは、約7割の教員から今後も開催を希望する旨の意見があり、第2回目を来年の1月以降に開催する予定です。



教員向け財務関係説明会参加者



「財務の現状及び今後の対応」の説明をする長谷財務室員

平成20事業年度財務諸表の承認について

平成21年9月1日付けで平成20事業年度財務諸表が、文部科学大臣より承認されました。(利益の処分に關する書類(案)を除く。)

この承認を受けて9月28日付けの官報に掲載し、本学のホームページでも公表しています。

URL:<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/information/joho/zaimu/h20.html>

平成20年度資産決算説明会について

平成21年9月8日（火）に銀杏会館において「資産決算説明会」を開催しました。

本説明会は、本学の構成員を対象に財務状況などの理解向上を図ることを目的として例年行っており、今年度は部局からも要望のあった平成20年度決算報告について、中期目標期間最終年度の予算執行、わかりやすい損害保険について、の3つのテーマに絞り説明を行いました。

関心の高いテーマということから160名を超える出席者があり、活発な質疑応答が行われました。



資産決算説明会風景

人事労務室

教員の定年年齢の引き上げについて

本学における教員（歯学部附属歯科技工士学校の教員を除く。以下同じ。）の定年年齢は、現在、63歳と定められております。

これまで本学では、教員の改正高年齢者雇用安定法への対応について、再雇用制度を導入することを決定し、その準備を進めておりましたが、平成19年10月の旧大阪外国語大学との統合、国家公務員における65歳定年延長への検討等、その後の情勢変化を踏まえて、再度検討を進めました。

その結果、教員の定年年齢を、平成22年度からは64歳、平成25年度からは65歳へと段階的に引き上

げる（平成22年度末において、満62歳～63歳の者については64歳、満61歳以下の者については65歳を各定年年齢とする）ことにより対応することとなりました。

対応方針等は、本学ポータルサイト（学内専用ページ 人事関係 人事関係のお知らせ）に掲載しております。

なお、詳細については、今後検討を行い、皆様にご理解いただくよう努めてまいりたいと考えております。

平成21年度～28年度 教員の定年年齢引き上げイメージ

年 度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
法定義務化年齢	63歳	64歳	64歳	64歳	65歳	65歳	65歳	65歳
平成22年4月1日 ～平成23年3月31日に 63歳を迎える者 (S22. 4. 2～S23. 4. 1生まれの者)	62歳	63歳	64歳	退職				
平成23年4月1日 ～平成24年3月31日に 63歳を迎える者 (S23. 4. 2～S24. 4. 1生まれの者)	61歳	62歳	63歳	64歳	退職			
平成24年4月1日 ～平成25年3月31日に 63歳を迎える者 (S24. 4. 2～S25. 4. 1生まれの者)	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳	退職	
平成25年4月1日 ～平成26年3月31日に 63歳を迎える者 (S25. 4. 2～S26. 4. 1生まれの者)	59歳	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳	退職
平成26年4月1日 ～平成27年3月31日に 63歳を迎える者 (S26. 4. 2～S27. 4. 1生まれの者)	58歳	59歳	60歳	61歳	62歳	63歳	64歳	65歳

広報・社会学連携室

10月2日から、武田佐知子室長（理事・副学長）に替わり、高杉英一室長（理事・副学長）が就任しました。

退任にあたって

過ぎてみればあっという間の2年間でした。外大との統合により、大学運営に手を染めたことのない私が、理事を拝命し、さらには広報・社会学連携室という、まったく新しい室の立ち上げを命ぜられました。突然大学行政の中枢に置かれて、右も左もわからないまま、会議で飛び交う、途方もない数値の金額や、壮大なキャンパスプランは、日本最小の予算規模であった大学の人間には、どれも目を見はるものばかりでした。阪大の社会学連携活動の柱として位置づけられる、21世紀懐徳堂も、その責任者として立ち上げを担当させていただきました。今後は、大阪大学らしさを如何に打ち出し、社会にアピールしていくか、さらに社会学連携活動で言えば、いかに学内に意義を浸透させて、広く社会に働きかけていくかが重要だと思います。広報・社会学連携室は、昨年4月にゼロから発足して1年半。ようやく広報活動も社会学連携事業も、準備・助走期間が過ぎ、様々な仕組みを編みだして、やっと本領を発揮できる状態になったといえます。その足がかりに少しでもお役に立てたのであれば幸いです。完成形を見ずに去るのは残念ではありますが、今後の広報・社会学連携室の発展をお祈りしています。

武田佐知子

就任にあたって

武田先生の後を受けて広報・社会学連携室長になりました。今まで、公開講演会やサイエンスフェスタなどには関わってきましたが、自治体や民間団体と協力して社会活動をするに関しては新人ですが、精一杯尽くしたいと思いますのでどうかよろしくお願いします。

広報は、大学の活動を広く社会へ知らせる観点から、また大学の社会への説明責任の観点からも強く求められています。室でまとめた広報指針をもとに、部局と大学の間の迅速かつ正確な情報のやりとりと集積した大学の豊富な情報を社会に強力に発信していきたいと考えています。

また、社会学連携は、産学連携とともに大阪大学の社会貢献の両輪をなすものです。21世紀懐徳堂を中心に、大阪大学のモットー「地域に生き世界に伸びる」のもと、社会との連携を強力に推進するとともに、部局や大学で行われている社会貢献活動を広く社会に紹介していきたいと考えています。

どうかご協力ご支援をよろしくお願い致します。

高杉 英一

広報関係部会の活動について

7月の室会議において、広報の具体案を検討するものとして「広報誌検討部会」と「O + PUS 部会」を設置することとし、現在検討を進めています。

広報誌検討部会では、本学が発行している「阪大NOW」及び「阪大ニュースレター」について読み手の立場に立ったわかりやすい紙面作りと内容のさらなる充実を具体的に検討し、より一層の内容の充実は当然ながら、手に取って読みたくなるようなデザインに関しても重視し検討を進めています。

また、O + PUS 部会では、パナソニック株式会社

からのご寄付により学内の各所に設置されております「多目的ディスプレイ O + PUS」を広報ツールとして友好に活用する方法や学内コミュニケーションツールとしての活用方法の具体的に検討。また、学生に向けた教育的効果の実証などを行っていくこととしています。

これらの部会では、ウェブデザインユニットとも連携し、室員メンバーを中心に検討を進め、大阪大学のブランド力の向上を図りたいと考えています。

国際交流室

日越学長会議

9月17日18日の両日、ベトナムのハノイで第1回目の日越学長会議が開催されました。ベトナム側の参加大学71校、日本側の参加大学54校、参加者はベトナム副首相兼教育訓練相のニャン氏、駐越特命全権大使の坂場氏、文部科学省審議官の加藤氏のほか、学長、副学長クラスの方々を中心に全部で300人を超え、日越交流に対する相互の関心の深さが明らかになりました。また、前日の大使館公邸におけるレセプションには100人を超える出席者がありました。

これだけ大規模になってしまったため、双方からの大学紹介が主となり、大阪大学もベトナムとの多分野にわたる長年の交流実績を紹介しました。具体的には旧大阪外国語大学（ベトナム語専攻）や文学研究科の交流、基礎工学研究科におけるサンドイッチ/ジョイントプログラム、工学研究科における環境関係の共同研究、学生の企画によるセミナーなどが行われてきており、理学研究科では特に最近、ベトナムからの学生受け入れに力を入れています。使用したパワーポイント資料は国際企画推進本部にありますので、興味のある方は同本部へお申し出ください。

ベトナム側からの紹介の中では、実は中部のダナン市に新しく「ダナン国際大学（仮称）」を建設する計画があり、日本側大学に新大学建設を支援して欲しいとのかなり強い要請がありました。この国際大学はベトナムで4つ計画されている内の一つで、ダナン国立大学と日本の大学が協力するという形にしたい、とのことでした。要請があったとはいえ、大学側だけで結論を導くことはできない問題であるため、2年後を目途に第2回目の学長会議を開催することだけを約束して会議は終了しています。

ベトナムでは、博士号を持つ教員が少ない現状を可及的速やかに改善するため、日本の大学の博士課程に学生または教員を入学させ、博士号を取得させ、研究力をつけることを強く望んでいます。また、学部教育にも関心を寄せています。グローバル30（G30）プロジェクトにおいて本学は、今後10年間にベトナムからの学生を現在の3倍受け入れることを目標の一つに掲げていますので、この点では実質的に貢献できるものと思います。研究力を備えた学生を育成し、将来、共同研究に発展できるのが望ましいと考えています。

サポートオフィスの移転

留学生センター IC ホール1階に設置されていたサポートオフィスが、10月1日をもって同じ建物の2階のロビーに移転し、新しいオフィスとなりました。これはG30のプロジェクトでサポートオフィスの拡充を行ったことに伴うもので、人員も増やしています。これにより、外国人学生、研究者へより良い実効的なサービスを提供すべく、一層努力したいと考えています。ご活用下さい。



G30 留学生リクルートキャンペーン

国際企画推進本部ではG30の資金で外国からの学生受け入れ促進のためのキャンペーンをいくつか計画しています。すでに9月にはベトナム、中国に出かけています。各地で行われる留学フェアに参加したり、模擬講義を実施するなど、効果的なキャンペーンを計画しています。関係部署には企画段階で連絡しますので、積極的に参加をご検討下さい。

International Programs at a Glance などのパンフレット制作

このたび国際企画推進本部では、本学で提供されている留学生向けの特別プログラムなどを総覧できるパンフレットを制作しました。外国出張の折の説明資料としても使えますので、必要な方は同本部へお問い合わせください。

FrontierLab@OsakaUについても詳しいパンフレットが制作されていますので、併せてご活用下さい。



豚由来新型インフルエンザ(A/H1N1)の現状と対策

大阪大学医学部附属病院感染制御部長
大阪大学流行性疾患対策会議

教授 朝 野 和 典

豚由来新型インフルエンザ(A/H1N1)の 流行状況と今後

毎年、通常の季節性インフルエンザは12月の半ば過ぎに流行が本格的になり、翌年の3月までシーズンが続きます。今年は、日本においても豚由来新型インフルエンザウイルス(A/H1N1)(図1)の流行が、8月末に宣言され、患者数が増加傾向にあります(図2)。日本の中でも沖縄県は8月中旬に流行が広がり、9月の初旬にピークを迎えました。世界的には、同じ北半球のイギリス、アメリカでも流行がみられ、すでに第1波が過ぎ去ろうとしています。このため、日本でもこれから本格的な流行がやってくると予想され、加えて、季節性インフルエンザの流行も12月から始まり、季節性インフルエンザと豚由来新型インフルエンザの流行が重なることも懸念されます。

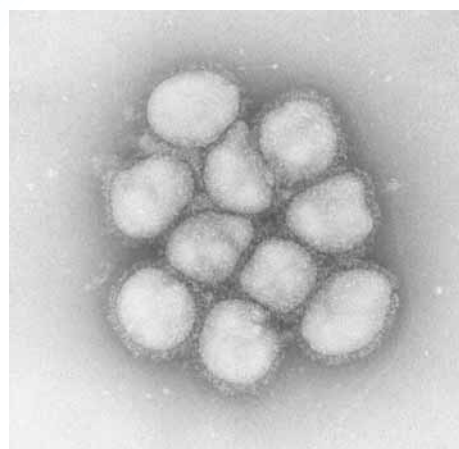


図1. 豚由来(A/H1N1)新型インフルエンザウイルス
(国立感染症研究所ホームページより)

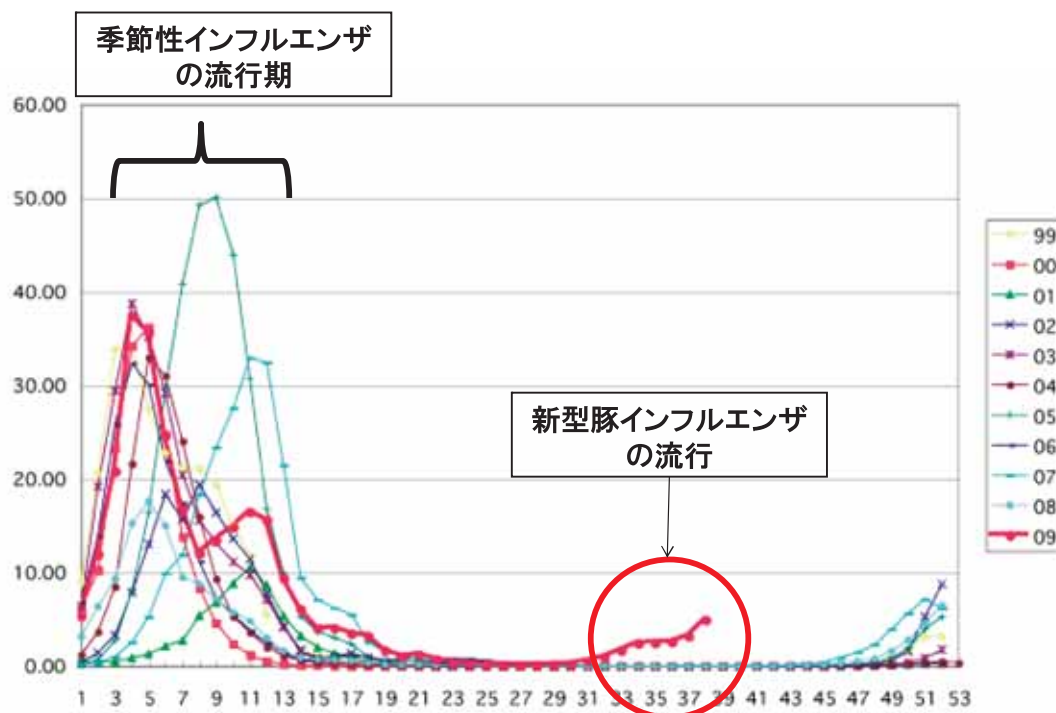


図2. インフルエンザ定点医療機関報告数の過去10年間の比較
(国立感染症研究所ホームページより)

豚由来新型インフルエンザ（A/H1N1）の臨床的特徴

新型インフルエンザの全体的な毒力は季節性インフルエンザと同等と考えられていますが、高齢者の死亡が圧倒的に多い季節性インフルエンザと異なり、基礎疾患のある青壮年者に死亡例がみられ、小児の重症肺炎や脳症も起こるなど、特徴があります。重症化し易い基礎疾患としては糖尿病、喘息、慢性の心疾患、腎疾患、肝疾患などがあり、また妊婦さんや乳幼児などでは厳重な注意が必要です。感染の拡大につれて、季節性インフルエンザ同様高齢者の重症化についても今後は注意が必要です。

感染経路と感染予防法

インフルエンザは、飛沫によって感染伝播します。飛沫は咳やくしゃみのしぶき、あるいは会話によっても発生します。このウイルスを含んだ飛沫が、周囲の人の鼻腔や口腔という上気道の部位に付着し、感染症が広がります。このため、飛沫に汚染されないような注意が重要です。飛沫は、くしゃみなどでは2m近く飛びますが、咳や通常の会話では1m以内しか広がることができません。マスクをした状態では飛沫の発生を防止することができます。また、マスクを着けていない状態で咳やくしゃみをしたくなったときには、口元をハンカチもしくはティッシュで覆い咳をするようにしましょう。その後ティッシュなどは蓋のあるごみ箱に捨て、手を洗いましょう。このようにすることを咳エチケットと言います（図3）。周りに人がいる時のくしゃみや咳には十分注意を払いましょう。



- 咳やくしゃみをするときは、ティッシュで口と鼻を覆いましょう
- ティッシュは近くの蓋のあるゴミ箱に捨て
- その後、よく手洗いをしましょう

図3．咳エチケットを守りましょう！

インフルエンザにかかったとき

インフルエンザは、体温が38℃を超える高熱と咳や咽頭痛などの上気道症状と全身倦怠感を特徴とします。通常健康な成人はほとんど重症化することなく2～3日で熱が下がり、治癒します。また発熱してから12時間以内では、迅速診断キットによる検査の陽性率が低いので、インフル

エンザであると診断できないこともあります。そのため、先に述べた重症化の危険因子となる基礎疾患のある人は、迅速診断キットが陰性でも、インフルエンザ様の症状があれば、症状のみで、インフルエンザを疑い、抗ウイルス薬の投与を受けます。基礎疾患のない成人では、発熱後12時間以降の検査が有用です。

入院が必要な重症化の徴候について、表1に示しますので、このような症状がみられた場合は、治療中でも再度受診し、レントゲン撮って肺炎の有無を確認してもらいましょう。また、小児の場合は、意識障害、つじつまの合わないことを話す、けいれんなどの症状がみられたら、すぐにかかりつけ医に相談するか、2次、3次救急の受診が必要です。

表1．重症インフルエンザを疑う症状

呼吸数が多い（頻呼吸）
息が苦しい（呼吸困難）
色のついた痰がでる（血液、膿性）
胸が痛い
意識がはっきりしない
血圧が低い
高熱が3日以上続く

抗ウイルス薬の効果と開発状況

抗ウイルス薬としては現在タミフルとリレンザが使用されていますが、タミフル耐性のインフルエンザウイルスの感染事例が報告されています。現在は、タミフル耐性豚由来インフルエンザ（A/H1N1）は広がっていませんが、今後予防的投与や薬剤の多用によって耐性ウイルスの世界的な拡大が起こる可能性は否定できません。

一方で現在、タミフル、リレンザ以外の複数の新規抗ウイルス薬が開発されており、来年以降順次使用可能となることが期待されています。これらは、注射、長時間作用型の吸入薬、作用機序の異なる抗ウイルス作用など多彩な特徴があり、臨床的な有用性が期待されています。来年には使用できるようになると言われています。

平成21年度 大阪大学新入教職員安全衛生講習会

5月7日(木)、8日(金)コンベンションセンター・MOホールにおいて、平成21年度大阪大学新入教職員安全衛生講習会を開催しました。本講習会は、新たに本学の教職員となられた方を対象に安全衛生管理の基本的な事項について理解を深めていただくことを目的に毎年開催しているものです。

学生生活相談室・太刀掛俊之准教授からは「労働安全衛生法と本学における安全衛生管理」について、保健センター・守山敏樹センター長と西田 誠准教授からは「健康管理」について、安全衛生管理部・山本 仁教授からは「実験系の安全衛生管理」について、それぞれ具体的な事例を踏まえた分かりやすい説明がありました。

参加者は、2日間で約430名でした。

(安全衛生管理部)



平成21年度 安全衛生に関する説明会

6月16日(火)コンベンションセンター・会議室において、平成21年度安全衛生に関する説明会を開催しました。

第1部では、文系、理系を問わず、すべての部局を対象に「労働安全衛生法と大阪大学の取組状況」、「安全衛生管理部による定期巡視システム」、「事故情報の収集及び調査分析」について説明がありました。



労働安全衛生法について説明する安全衛生管理部・塩谷隆志係長

第2部では、関係部局を対象に「労働安全衛生法に基づく各種機械設備の届出」、「高圧ガス保安法に基づく各種機械設備の届出」、「感染症法に基づく病原体等の届出」について、説明がありました。

参加者は、約130名でした。



高圧ガス保安法について説明する安全衛生管理部・南 康孝係長

(安全衛生管理部)

高等司法研究科・法学研究科附属法政実務連携センター主催 特別公開講義「法律事務所の立ち上げのシミュレーション」

7月10日(金) 弁護士の南川博茂氏(高等司法研究科特任教授) 外山弘氏、尾崎一浩氏、新谷俊彦氏を特別講師としてお招きし、高等司法研究科授業「ベンチャー社会と法」を一般学生にも公開し、特別公開講義「法律事務所の立ち上げのシミュレーション」として行いました。

「ベンチャー社会と法」では、現代社会における起業の意味、会社組織のあり方といった起業・経営の知識を学んでいますが、今回の特別講義ではまず通常の講義内の9班を3つに分け、グループごとにおひとりの先生にご指導いただきました。学生たちは、特別講義に先立ち「法律事務所



所」を起こす場合に想定される問題とその解決に至る道筋を班ごとに討論し、その成果についてプレゼンテーションを行い、次に、討論のなかで確認されたさまざまな疑問を弁護士の方々に直接投げかけました。聴講生も含め参加者からの意見や質問は途絶えることがなく、講義時間は3時間にわたりました。先生方からは、学生たちの斬新な発想と実現可能性との乖離を埋めるための適切なアドバイスを頂くことができ、学生たちが弁護士の方々と直接議論する貴重な機会となりました。

(高等司法研究科、法学研究科・法学部)

平成21年度 大阪大学課長補佐研修(新任)

平成21年度大阪大学課長補佐研修(新任)が、7月15日(水)~17日(金)までの3日間にわたり本部事務機構棟で行われました。

本研修は、本学または出向先機関において新たに課長補佐及び課長補佐相当職になった34名を対象として、「その



演習風景

職務遂行に必要な基本的・一般的知識を習得させるとともに、監督者としての能力及び識見を確立させ、大学行政の管理運営の重要な担い手として職員の資質の向上を図る」ことを目的として、実施されたものです。

開講式では、月岡英人理事・副学長から、課長補佐としての立場や役割をしっかりと認識していただき、多くのことを学んでいただきたい旨、激励の言葉がありました。

その後、外部の研修講師により実習形式にて研修が行われ、受講生は普段と異なる雰囲気の中、講義、実習を通して、変革リーダーとしての立場から課題解決の方法やコミュニケーションスキルについて学び、課長補佐に求められる役割について認識を深めました。また、総合演習においては、実際に起こりうる演習例について、活発に意見交換を行いました。

受講生全員が意欲的に課題に取り組み、所定の課程を修了しました。

(総務部人事課)

APRU 第10回博士課程学生会議

本学が加盟しているAPRU (Association of Pacific Rim Universities : 環太平洋大学協会) が主催する博士課程学生会議 (DSC: Doctoral Students Conference) は、APRU加盟大学の大学院博士後期課程に在籍する学生のネットワーク DSN (Doctoral Students Network) が中心に企画・運営する国際学術会議です。10回目を迎える今年は7月6日(月)から10日(金)までの間、京都大学で実施され、本学からは Respati T. Swasono さん (理学研究科) が参加しました。

専攻分野に関わらず広く院生同士の交流や学際的研究を促進するこの会議に参加することにより、研究を継続するうえでの示唆や刺激を受けることができます。また、会議期間中に催された社会プログラムでは、清水寺訪問、茶道、書道等たくさんのアクティビティが企画され、文化的交流の経験の場ともなりました。今後一人でも多くの院生が



1番右がRespatiさん

本会議に参加できるよう、奨励していきたいと思います。

会議概要

テーマ : Promoting Originality and Diversity in Research

内 容 : ・教授によ

る特別講演

・参加学生によるプレゼン (英語) と質疑応答等
分野は法律、医療、経済、環境、工学、社会学、人文科学、生物学、情報科学、等々多岐に亘る。

他の参加大学 :

オーストラリア国立大学、シドニー大学、プリティッシュコロンビア大学、復旦大学、南京大学、北京大学、香港大学、浙江大学、国立台湾大学、ソウル大学、マレーシア大学、メキシコ国立大学、オークランド大学、フィリピン大学、シンガポール国立大学、チュラロンコン大学、カリフォルニア大学、オレゴン大学、南カリフォルニア大学、バンコク大学、慶應大学、京都大学、東京大学、早稲田大学等

本学からの参加者と発表テーマ

Respati T. Swasono さん (理学研究科) :

テーマ : Sterol effect on interaction between amphidinol 3 and liposomal membrane as evidenced by surface plasmon resonance experiments.

(大阪大学国際交流室のサイトに参加者のレポートが掲載されています。こちらをご覧ください。)

<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/international/iab/index.html>

(国際部国際交流課)

APRU 学部学生サマープログラム

本学が加盟しているAPRU (Association of Pacific Rim Universities : 環太平洋大学協会) は、毎年、加盟大学の学生同士の交流を目的に学部学生サマープログラムを開催しています。今年は7月13日(月)から24日(金)までの間、シンガポール国立大学で開催されました。今年の対象者は「リーダーシップ」に関心のある学部学生で、大阪大学からは多数の応募者の中から選ばれた、外国語学部2年の尾崎 恵さん、工学部3年の吉田真理さんが参加しました。

講義や課外活動による交流のみならず、Opening/Closing パーティーや地元レストランでの会食を通じた参加各国の学生との交流で、講義以上の収穫を得ることができたとのことです。今後も本学学生の積極的な参加を期待します。

サマープログラム概要

テーマ : Rising to the Challenge-Global Student Leadership in the 21st Century

内 容 : 著名研究者・教員による講義と質疑応答、ワークショップ、参加学生によるプレゼン、シンガポール観光 (博物館、ナイトサファリ等)

他の参加大学 :

南カリフォルニア大学、メルボルン大学、シンガポール国

立大学、香港大学、清華大学、復旦大学、オーストラリア国立大学、オレゴン大学、浙江大学、シドニー大学、北京大学、高麗大学校、中国科学技術大学、オークランド大学、ソウル大学、香港科学技術大学、南京大学、チリ大学、国立台湾大学、京都大学、東北大学、東京大学 等

参加者数 : 49 名



(大阪大学国際交流室のサイトに参加者のレポートが掲載されています。こちらをご覧ください。)

<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/international/iab/index.html>

(国際部国際交流課)

平成21年度 大阪大学春季安全衛生集中講習会

7月13日(月)～7月17日(金)にかけて、平成21年度大阪大学春季安全衛生集中講習会を豊中・吹田・箕面の各キャンパスで開催しました。本講習会は、安全衛生意識の向上を図るとともに、事故・災害の発生の防止及び健康の保持・増進を目的に毎年実施しているものです。当初は5月に実施予定でしたが、新型インフルエンザの流行を受け、



安全衛生管理の基本について説明する
安全衛生管理部・山田 等特任研究員

7月に延期となりました。

講習会では、全部局に共通する安全衛生管理の基本や健康管理に関する講習科目の他、化学薬品、酸欠、核燃料物質、高圧ガス、電気、レーザーといった様々な専門的な事項に関する講習科目を開講しました。

参加者は、全日程で約1,300名でした。



酸素欠乏事故の防止について説明する
安全衛生管理部・富田賢吾講師

(安全衛生管理部)

平成21年度 大阪大学安全講演会

7月24日(金)医学部銀杏会館阪急電鉄・三和銀行ホールにおいて、平成21年度大阪大学安全講演会を開催しました。本講演会は、全国安全週間(7/1～7/7)にあわせて毎年開催しているものです。

今年度は東京大学総長補佐の大島義人教授をお招きして、「誰のための安全か?」という演題でご講演を頂きました。大学という最先端の研究を行う現場、且つ教育の現場でもある組織の中で、教職員として、そして学生として、どのように安全について考えるべきか、そしてどのように安全について取り組むべきか、などを具体的な事例も交えてご講演頂きました。

また、大島先生が会長を務めておられ、研究教育機関における環境、安全、教育を考えるために日本全国の大学関係者及び企業らと組織した「研究実験施設・環境安全教育研究会(REHSE)」の活動状況もご紹介頂き、安全に関する教育をより合理的、そして効果的に行うための方法、教材の紹介や、建物や部屋の設計も含め、施設面で考えるべ



講演する大島教授

きこと、そして安全に関する研究などをご紹介頂きました。

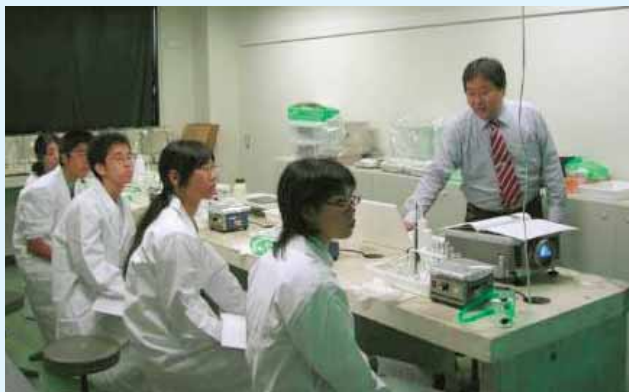
参加者は本学の教職員、学生を始め、他大学からの受講者もあり、およそ100名程度でした。

(安全衛生管理部)

ひらめき ときめきサイエンス ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI

7月31日(金)に臨床医工学融合研究教育センターが、8月1日(土)に理学部・理学研究科が、ひらめき ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHIを開催しました。

本事業は、独立行政法人日本学術振興会が支援しているもので、児童・生徒を対象に、学術と日常生活との関わりや学術がもつ意味に対する理解を深める機会を提供することで、知的好奇心を刺激し心の豊かさや知的創造性を育むこと、及び科学研究費補助金による研究成果をわかりやすく発信することを通じて、学術の文化的価値及び社会的重要性について示し、学術の振興を図ることを目的としています。



事前の説明を聞く参加者



実験中の様子

今回、臨床医工学融合研究教育センターではプログラム「心臓専門医になってみよう！～心臓は生命の源～」を国立京都国際会館で実施し、29名の参加がありました。また、理学部・理学研究科では、プログラム「分子の世界をのぞいてみよう」を実施し、45名の参加がありました。両プログラムとも参加者は熱心に実験を行い、科学の楽しさを知ることはもちろん、研究者・大学院生や他校の生徒と活発に交流することもでき、「普段は経験できない貴重な体験ができた」という声が多数寄せられました。最後には、「未来博士号」を認定した修了証書を各参加者に授与し、幕を閉じました。
(研究推進部研究推進課)

平成21年度(第31回) 基礎工学部公開講座「未来を拓く先端科学技術」

基礎工学部公開講座「未来を拓く先端科学技術」が、8月3日(月)～6日(木)の4日間にわたり、基礎工学部国際棟(シグマホール)において開催されました。

今年で31回を数える本講座は、基礎工学部からの情報発信の一環として1979年から毎年開催されており、地域社会と大学との連携を深めるための重要な役割を担っています。

今回は、基礎工学研究科、情報科学研究科及び生命機能



講義の様子



研究室見学

研究科の教員9名が、自らの研究成果や科学技術について、当該研究分野の歴史にはじまり最新の動向まで、分かりやすく講義を行いました。また、講義終了後に実施した研究室見学も大変好評でした。

高校生から80代の方まで、131名の参加者が熱心に講義に取り組み、4日間の公開講座は盛況のうちに終了しました。
(基礎工学研究科・基礎工学部)

第15回スーパーコンピューティングコンテスト 電脳甲子園 - SuperCon2009 -

大阪大学サイバーメディアセンター及び東京工業大学学術国際情報センターでは、8月3日(月)～8月7日(金)まで高校生・高専生を対象とした第15回スーパーコンピューティングコンテスト(略称 SuperCon2009)を開催しました。



参加者及び関係者による記念撮影
 (写真上：大阪大会場にて)
 (写真下：東京工業大会場にて)

本コンテストは、スーパーコンピュータを使用して、与えられた課題を解くプログラムを作成し、プログラムの正確さと速度を競うものです。

高校生・高専生を対象としたプログラミングコンテスト、しかも、スーパーコンピュー

タを使用するコンテストは他になく、参加する高校生にとっても実際にスーパーコンピュータに触れることのできるよい機会となっています。

今回の予選には、全国から23校36チームが参加し、そのうち14校20チーム(東京会場：6校10チーム、大阪会場：8校10チーム)が本選出場を果たしました。本選では、4日間にわたりプログラミングが行われ、最終日に各チームのプログラム結果の発表の後、表彰式に移り、今年度実施当番校の大阪大学である鷲田清一総長より1位から3位の各チームに表彰状、盾およびメダルの授与が行われました。

熱戦の結果、第1位は筑波大学附属駒場高等学校(東京都)のチームZATORIKU(原 将己君、吉里 陸君、河合眞一朗君)となり、第2位は筑波大学付属駒場高等学校(東京都)のチームPOTASSIO(鈴木良平君、副島 真君、田原拓樹君)、第3位は八千代松蔭高等学校(千葉県)のチームH5N1(今西健介君、加藤 優君、清水伸高君)となりました。

(サイバーメディアセンター)

「第3回パンキョー革命(学生・教職員懇談会)」で共通教育を熱く語る!

8月6日(木)イ講堂にて「パンキョー革命(学生・教職員懇談会)」を開催しました。このイベントは、共通教育のよりよい在り方を学生と教職員が対話をしながら、共に考えていくために企画されたもので、第3回目を迎えます。

今回は、過去2回の実施を踏まえて、学生・教員・職員の有志からなる準備会を組織し、計16回にわたる会合を積み重ね、会の運営の仕方や方向性を話し合うとともに、第3回の実施を視野に入れて、過去2回の「パンキョー革命」を踏まえて改善されたことがらの整理と未だ解決していない共通教育の課題について議論を重ねました。グループワークなども行って、我々が取り組むべき問題の明確化を図りました。

さて、今回の参加者は学生28名、教職員27名を数え、前回よりも多くの参加者を集めました。工藤眞由美大学教育実践センター長の挨拶の後、全員が8つのグループに分かれて、準備会の議論から導き出された以下の6テーマについてのグループ討論を行いました。

- 1) 授業に対するやる気について
- 2) 学生と教員の相互理解について
- 3) 授業の面白さについて
- 4) 成績評価に関して
- 5) 専門と共通教育の関係について
- 6) 履修クラスが決められていることについて

それぞれの問題に関して各グループで熱心な討論がなさ

れた後、パネルを用いてポスターセッション風にその経過と結論が発表されました。印象に残るのは問題点のみを挙げるのではなく、それぞれ建設的な提案を行っていたことでした。学生・教職員とも参加者は大変満足していたように感じました。実際に、アンケートに回答してくれた学生全員が本会を「たいへん有益」または「有益」であったと回答していました。また、約7割の学生が第4回があれば「参加したい」と回答しています(「参加したくない」は0名)。さらに、回答者の3割近くが「パンキョー革命」準備会の取組への参加を表明してくれました。

2時間以上に及ぶ熱い語らいは、さらに懇親会へと続き、40名以上が参加して最後まで盛り上がりました。懇親会の挨拶では工藤センター長が上の諸意見に対する現段階での対応法について述べました。今後、より多くの幅広い学生・教員・職員を巻き込みながら対話を継続し、より広がりのある取組にしていきたいと考えています。



(大学教育実践センター)

三大学(大阪大学、京都大学、神戸大学)合同大学説明会

大阪大学、京都大学、神戸大学の三大学が合同して大学説明会を実施しました。今年で二回目となる合同説明会は、会場を昨年のお阪に加えて広島でも開催し、8月2日(日)



大学の説明紹介をする西村京都大学理事・副学長(右側)
小泉大阪大学理事・副学長(中央)
石田神戸大学理事・副学長(左側)



三大学の理事・副学長の大学紹介説明を
熱心に聞き入る受験生や保護者



受験生時代の経験談や大学紹介をする
三大学の現役学生

の大阪会場(梅田スカイビルタワーウエスト)には959名、7月20日(月・祝)の広島会場(広島国際会議場)には470名の事前申し込みを大きく上回る参加者があり、両会場とも満員の盛況でした。

説明会では、三大学の理事・副学長(大阪大学 - 小泉潤二理事・副学長、京都大学 - 西村周三理事・副学長、神戸大学 - 石田廣史理事・副学長)による「大学のトップが語る 京阪神大学紹介」による題目でのパネルディスカッションがあり、参加している受験生や保護者等が熱心に聞き入っていました。引き続いて、「現役大学生が本音で語る こうやって私は受験を乗り切った。そして今・・・」として三大学の現役学生によるパネルディスカッションと大学紹介が行われました。

また、会場では個別相談コーナーとして、各大学の学生や教職員に説明会では聞けなかったことを直接に質問できるコーナーも設けられ、多数の受験生が訪れていました。

(学生部入試課)

大学説明会(オープンキャンパス)

8月5日(水)から20日(木)の間の9日間に学部毎(11学部)に大学説明会(オープンキャンパス)を開催しました。

同伴の保護者を含め、昨年に2,000人余り上回る18,753人の参加があり、予想を大幅に上回った学部では炎天下のなか、急遽補充の配付資料を汗をかきながら会場に運ぶ職員の姿もありました。

それぞれの学部が企画したプログラムは、学部(学科等)紹介、模擬授業、研究室紹介、在学生による談話等があり、どの会場でも参加者は熱心に聞き入っていました。毎年増加する多数の参加者に対応するため、午前・午後にそれぞ



歯学部の実験室見学の様子



人間科学部の模擬授業の様子



法学部の入試説明会の様子



個別相談コーナーで現役学生に質問する参加者

れプログラムを実施する学部も4学部ありました。

また、各学部のプログラムと並行して開設された入試課員の個別相談に加えて、現役の学生が企画した参加者の質問に答える相談コーナーでは、「どんな勉強をすればいいですか?」「過去問は何年分しました?」「サークルやバイトする余裕有りますか?」などの質問にやってくる参加者と2~3人一组で実体験を交えながらアドバイスする学生たちで賑わっていました。

(学生部入試課)

公開シンポジウム「今、医療の最前線では？」

8月18日(火)、中之島センター10階の佐治敬三メモリアルホールにおいて、大阪大学は日本学術会議と共催で、公開シンポジウム「今、医療の最前線では？」を開催しました。

本シンポジウムは、“大坂の地”で、適塾や天然痘の歴史を振り返るとともに、最先端医療の進歩を分かりやすく解説することを目的として開催されたものです。

当日は、一般市民、学生など約150名が参加しました。鷲田清一総長と唐木英明日本学術会議副会長の挨拶に始まり、続くプロローグでは、芝 哲夫名誉教授が「緒方洪庵



鷲田総長の挨拶



と日本の医学」について、加藤四郎名誉教授が「緒方洪庵と天然痘との戦い」について講演を行い、緒方洪庵が目指した適塾の精神や天然痘との戦いの歴史を紹介しました。

プロローグ後の講演では、廣橋説雄国立がんセンター総長や松澤佑次(財)住友病院院長等の日本学術会議第二部会員及び大阪大学の生命科学の専門家8名が、画像や映像を用いながら、がん対策、メタボリック・シンドローム等現在の最先端医療を分かりやすく説明しました。参加者は講師の説明及び解説にメモをとるなどして熱心に聴講し、シンポジウムは盛況のうちに終了しました。

(研究推進部研究推進課)

第59回 教職員懇親会

毎夏の恒例行事である教職員懇親会が8月27日(木)にアサヒビール株式会社吹田工場ゲストハウスで開催されました。この懇親会は、昭和25年から続く伝統ある行事で、アサヒビール株式会社のご厚意により毎年行われているものです。当日は本学から鷲田清一総長、小泉潤二理事・副学長、門田守人理事・副学長、月岡英人理事・副学長、辻 毅一郎理事・副学長、関 順一郎監事をはじめ、名誉

教授、退職事務職員及び現職の教職員が、また、アサヒビール株式会社様からは高橋正哲専務取締役以下本学の卒業生を含む関係者の出席がありました。

開会に先だち、高橋専務取締役及び鷲田総長の挨拶があり、熊谷信昭元総長の発声による乾杯で懇談会が開始され、抽選会が催されるなど、終始和やかな雰囲気の中、出席者が互いの旧交を温め合い、盛会のうちに終了しました。



(総務部総務課)

生涯生活設計セミナー (退職準備セミナー)

8月28日(金)文部科学省共済組合・大阪大学主催、大阪教育大学・和歌山大学・国立民族学博物館・和歌山工業高等専門学校・国立国際美術館共催による平成21年度「生涯生活設計セミナー」が基礎工学研究科国際棟シグマホールで開催されました。



このセミナーは、定年退職を間近に控えた国立大学法人等の教職員並びにその配偶者を対象に行われたもので、教職員の退職に当たっての心構えや退職後の生活設計に必要な知識を提供することにより将来への不安を解消し、今後の社会生活、家庭生活の基礎づくりに役立ててもらうことをねらいとして開催されたもので、今年度は74名の参加者があり、退職後の生活について関心の高さをうかがわれました。

当日、本学月岡英人理事・副学長の開会挨拶の後、退職後の生活設計を見つめる観点から、以下のプログラムで進められ、充実した内容の講義が行われました。

- ・生涯生活設計づくりに向けて 退職後の健康プラン
(教職員生涯福祉財団 セミナー推進員 木曾 長)
- ・共済年金・退職後の医療保険
(教職員生涯福祉財団 セミナー推進員 設楽 徹)
- ・退職後の経済プラン 経済生活プランの作成
(教職員生涯福祉財団 セミナー推進員 毛利 益之)
(総務部人事課)

2009年 日韓共同理工系学部留学生事業推進フェア

9月6日(日)、日韓両国政府の奨学金によって韓国の高校卒業生100名程度を日本の国立大学理工系学部に入らせる事業(日韓共同理工系学部留学生事業)の推進フェアが、韓国ソウルの国立国際教育院で行われました。日本から27校が参加した同フェアでは、同事業の第2次第1期筆記試験合格者150名とその保護者を対象に、日本側各大学が各々の研究・教育の特徴をアピールしました。

本学からは、留学生受入部局である理学研究科、工学研究科、基礎工学研究科の担当教員、そして受入事務を担当する国際部学生交流推進課の担当者が参加したほか、当日の通訳として、本学在学中の本事業学生(3期生、6期生、7期生、9期生の各1名ずつ)が参加し、各研究科の特色



を熱心に説明しました。このほかにも、9期生2名、本年10月から来学予定の10期生5名が応援に駆けつけ、絶え間ない本学ブース来訪者への対応に当たり、盛況の裡にフェアは終了しました。

なお、本事業(第1次事業)は、平成12年から平成21年までの10年間で、合計1,000人受入れることを目標とし実施してきたところですが、このたび、第1次事業に引き続き、平成22年から平成31年までの10年間で、1,000人受入れることを目標とした第2次事業を行うことが日韓首脳会談において合意されたことに基づき、当フェアが開催されました。

(国際部学生交流推進課)

障害学生支援室セミナー 第7回『発達障害を有する学生の理解と支援』

近年、高等教育で学ぶ発達障害を有する学生の存在に注目が集まりつつあります。しかし、高機能自閉症やアスペルガー症候群といった発達障害は外見からは分かりにくく、障害そのものもあまり知られていないため、周囲からは「努力が足りない」、「自分勝手」と誤解を受けがちです。そこで、発達障害や大学における発達障害学生への支援のあり方に関して、学内の理解を促進することを目的としたセミナーを、9月7日(月)人間科学研究科東棟2階ユメヌホールにて開催いたしました。

講師を務めていただいたのは、金沢大学子どものこころの発達研究センター・特任助教の高橋和子氏と、本学保健センター学生相談室・准教授の石金直美氏です。高橋氏からは、高機能自閉症をもつご子息の大学及び大学院における進学・就学の経験をご紹介いただきながら、卒後を見据え、大学が発達障害のある学生にとって学ぶ意義のあるものであるためにどのようなことがポイントになるのかをお話いただきました。また、石金氏からは、専任カウンセラーとしての学生相談室でのご経験を踏まえ、発達障害が疑われる学生が本学にも少なくないことや、単なる診断に終わらずに、本人なりの論理を理解し支援につなげていくという姿勢が重要であることをお話いただきました。

およそ50名の参加者との質疑では「発達障害学生を受



高橋先生による講演の様子

け持つ教員に対する支援も必要ではないか」といった意見が出され、またアンケートでは「発達障害という名前は時々聞くものの具体的なケース、特に学生生活にまつわる話を聞いたことはほとんどなかったので非常に勉強になった」といった感想が見られました。

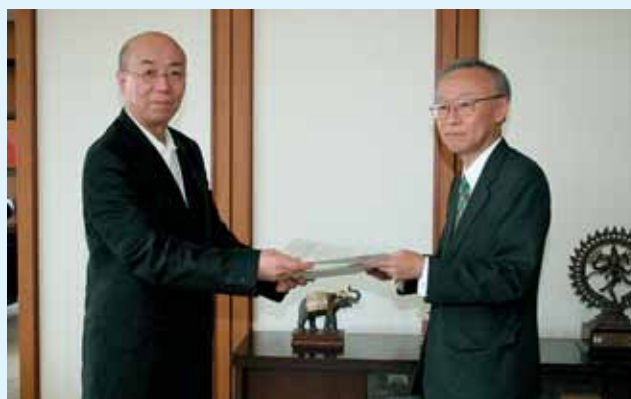
こうしたセミナーの成果は、今後の大阪大学における発達障害学生の支援ネットワークづくりへと活かしていきたいと考えています。

(学生部キャリア支援課)

脳情報通信分野融合研究実験棟建設の基本契約書締結

9月9日(水)に、本学と独立行政法人情報通信研究機構(NICT)との間で、「脳情報通信分野における融合研究に係る実験棟の用地及び建設等に関する基本契約書」を締結しました。

これは本年1月7日に、本学とNICTとの間で既に締結



基本契約書の取り交わし(左から鷲田総長、吉崎理事(NICT))

している、「脳情報通信分野における融合研究に関する基本協定書」に基づき、本学が用地を貸し付け、NICTが実験棟を建設するという内容の基本契約を締結したものです。

本学とNICTは従来から、フォトニックネットワーク技術、バイオICT、ナノICT等に関する共同研究、連携大学院協定、研究員の受け入れなど、多様な連携を実施し、数多くの成果を挙げてきました。

脳情報通信分野における融合研究の新拠点となる実験棟は、本学吹田キャンパスに2012(平成24)年度竣工予定で、世界に十数台しかない高出力の機能的磁気共鳴画像装置(fMRI)を導入し、脳のメカニズムの研究をベースに、次世代の情報通信ネットワーク技術の実現を目指し、世界最高水準の融合研究をスタートする予定です。

当日は、総長室において、鷲田清一総長と独立行政法人情報通信研究機構吉崎正弘理事により、基本契約書の取り交わしが行われました。

(研究推進部産学連携課、財務部資産決算課)

阪大学生フォーミュラチームOFRAC 全国大会にて総合4位獲得

阪大学生フォーミュラチーム“OFRAC (Osaka-univ. Formula RAcIng Club)” (<http://ofrac.net/>) は、9月8日(火)～12日(土)の日程で(社)自動車技術会が主催する全日本学生フォーミュラ大会 (<http://www.jsae.or.jp/formula/jp/>) に参戦しました。

本大会は、学生の自主的なものづくりの総合能力を養成し、ものづくり育成の場を提供する公益・教育活動として毎年開催されており、本年度で7回目の開催となります。今回は静岡県の小笠山運動公園エコパにて、全国から65大学のチームが集い、熱い戦いが繰り広げられて、阪大チームOFRACは、総合4位という好成績を獲得しました。

本競技はフォーミュラスタイルの小型レーシングカーを、学生が大学ごとにチームを組んで自らの手で企画・設計・制作したものを持ち寄り、車両の走行性能だけでなく、車両コンセプト・設計・コスト審査などものづくりの総合力を競うものづくりコンペティションです。

大会初日・2日目は車検ならびに静的審査が行われました。車検では車両の安全・設計要件の適合や、ドライバーの5秒以内脱出、ブレーキ試験、騒音試験などが行われました。この厳しい車検にパスしない車両は大会3日目以降に行われる動的審査に参加することができず、車検を通過できない大学も多くある中、阪大チームOFRACは初日に無事車検を通過しました。

2日目には静的審査が行われ、このうちコスト審査では車両コスト計算の正確性や部品製造プロセスの知識を問う審査が、プレゼンテーション審査では自分たちの車両の設計上優れている点をプレゼンテーションする審査が、設計審査では車両設計の工夫点や技術の適切さや革新性についての審査が行われました。

3日目・4日目には実際に車両を走らせて走行性能を競う動的審査であるアクセラレーション(直線75m加速性能評価) スキッドパッド(8の字旋回によるコーナリング性能評価) オートクロス(約800mコースの1周のタイムアタック) エンデュランス(周回コースを20周する耐久走行) 燃費審査が行われました。



H21年度OFRACメンバーと製作車両



第7回全日本 学生フォーミュラ大会 2009年9月9日～12日
エコパ(小笠山総合運動公園:静岡県)

阪大チームは静的審査、動的審査のすべての競技に参加し好成績をおさめることができました。

今大会で阪大チームが獲得した各賞は以下のとおりです。
(参加65チーム中)

- ・総合優秀賞4位
- ・コスト賞1位
- ・静的審査優秀賞5位
- ・省エネ賞3位
- ・日本自動車工業会会長賞(全種目完遂完走賞)

今大会での成績は昨年度の総合6位に次ぐチーム史上最高の成績であり、日頃の学生の努力ならびに関係者の皆さまのサポートの賜物です。

阪大チームOFRACは主に工学部、基礎工学部の学生25名からなる学生の主体的活動のクラブチームですが、工学研究科附属フロンティア研究センター(FRC)の学生推進プロジェクトならびに学生地域連携推進プロジェクト、また大阪大学課外研究奨励賞のプロジェクトテーマとして採択されご支援いただいております。また、活動場所・環境は工学研究科機械工学専攻ならびに学生実習工場に提供いただき活動を行っております。活動をサポートして下さるスポンサーの皆様や関係各位の温かいご支援ご声援に感謝申し上げますとともに、次年度のチームにも更なる期待をしたいと思います。(工学研究科機械工学専攻 吉田憲司(OFRACチームファカルティアドバイザー))



リーダー: 工学研究科 池内 祥人 君

(工学研究科・工学部)

大学院学位記授与式

9月25日(金)午前11時からコンベンションセンターMOホールにて、大学院学位記授与式が行われました。

修了者は200名(修士39名、課程博士135名及び論文博士26名)を数え、修士及び博士の受領代表者19名が驚田清一総長から学位記を授与されました。

列席した受領者は、総長からの式辞で「社会のいかなる困難な問題もみずからの問題として受けとめるそのような視界のなかに、みずからの専門研究をおいていただき、そのような務めと責任をこれからの社会の中でしっかりと果たしていただきたい。そして『大阪大学で学んだ学生は一味違う』と言ってもらえるような信頼感のある研究者もしくは企業人になってほしい」と激励を受けました。



(総務部総務課)

大学院学位授与式総長式辞

本日ここに修士/博士の学位を得、授与式を迎えられたみなさんに対し、まずは心よりお祝いを申し上げます。また、幼少の頃からこの日まで、みなさんの勉学を支えてこられたご家族の方々の長きにわたるご苦労に対しても、心より敬意を表したく存じます。

これから企業や、民間の研究所、あるいはシンクタンクに活動の場を移される方もおられれば、さらに大学で研究を続けられる方もおられるでしょうが、それぞれに本学で培った知恵と知識と技能を存分に発揮されてゆかれることを、心より願っております。

みなさんは専門的な研究の最初の一つをまとめ、ここに学位を得られました。専門的な知、それはイメージでもなければイデオロギーでもない、明確な方法的意識にもとづく確実な知であります。一つのことがらについて、そのような専門的な知を究められたみなさんは、この経験をこれからさらに別の分野においても活かしていけるでしょう。



わたしはみなさんが、科学者、研究者としての務めと責任とを、社会のさまざまな現場でこれから着実に果たしていけることと強く期待しています。

ところで、先ほど申し上げた「確実な知」ということには、二つの意味があります。科学のあるきわめて限定された問題について、客観的な方法と論理にもとづいて精緻に論じるということが一つです。しかしこうした知の対極に、豊かな経験に培われた判断という、もう一つの確実な知があります。

じっさい、みなさんが現代科学や現代思想の枠組みのなかで細分化され、局所化された問題を究めるなかで手にされた知を、現実の社会のなかで活かしていこうと思えば、自分の専門の外に位置しているひとたちとの協働作業を欠かせません。つまり専門を異にするひとたち、専門外のひとたちとの協働です。そのためには、この社会、この時代の大きな知の広がりの中で、みずからの専門的な知をきちんとマッピングすることが必要です。能楽の世阿弥が言ったような「離見の見」、つまりは自分を、というか自分の立っている位置を、自分の背後から一定距離を置いて見るようなまなざしが必要です。その「離見の見」をフランスの民族学者、レヴィ＝ストロースは「はるかなる視線」というふうに訳しました。

その「はるかなる視線」を手に入れるためには、専門的な知とは別のもう一つの知、つまりは専門外のさまざまな知に日頃からふれていなければなりません。これは「豊かな教養」というふうに言うこともできます。教養とは、一つの問題に対して必要ないくつもの思考の補助線を立てることができるということです。いいかえると、問題を複眼で見ること、いくつかの異なる視点から問題を照射することができるということです。このことによって、ひとの知性はより客観的なものになります。わたしたちの知性がそ

のように複眼的になるためには、常日頃から、自分の関心とはさしあたって接点のない思考や表現にふれるよう心懸けていることがなにより大切です。専門とは異なった領域での読書がそうですし、さまざまな大切な社会的な活動を地道におこなってきたひとびとの話を聴くということもそうでしょう。

それらにふれるためには、自分の専門外のことがらにたいしていつもアンテナを張っていなければなりません。言ってみれば、異質なものに対して狩猟民族がもっているような感度の高いアンテナを、いつも自分のまわりに張りめぐらせていなければならないということです。要するに、狩猟民族が数キロメートル離れた地点での自然環境の微細な変化に的確に感應するのと同じような仕方です。同時代の社会の、微細だけれども根底的な変化を感知するセンスをもつということです。そういうグッドセンスを、みなさんにはこれから一層磨いてほしいと思います。こうした「教養」を深く身につけていることによって、みずからの限られた専門知を、広く社会に活かすことができます。自分の専門領域に関することがらを、その専門領域を知らないひとたちに、魅力あるものとして語ることもできるようになります。

こうした考えから、大阪大学はその『グラウンドプラン』のなかで、研究の精神として次の三つを謳っています。それは、「基礎」と「ときめき」と「責任」です。英語でいえば、研究においてつねに basic で exciting で responsible でいようという提案です。「基礎」とは、つねにベーシックな研究に根を下ろした研究をおこなうということであり、



「ときめき」とは「面白くてたまらない」、「わくわく・ドキドキする」ようなイクサイティングな研究に没頭することであり、「責任」とはみずからの研究が（プラスであれマイナスであれ）社会的にどのような意味を担っているのかについての意識を強くもち、その研究を同時代、さらには未来の世代の幸福のために活かしてゆくということです。

この最後の「責任」ということに関していえば、明治時代の終わり、1911年に大阪毎日新聞慈善団が発足した折り、当時の毎日新聞社長であった本山彦一が語ったこんな言葉を思い出します。本山は言いました。「一本の指のうずきは、同時に、全身の苦痛である。社会の一隅に、生活に疲れ、病に苦しむ者の存することは、すなわち、社会全体の悩みでなければならない」と。この言葉とともにみなさんに訴えたいのは、社会のいかなる困難な問題もみずからの問題として受けとめるそのような視界のなかに、みずからの専門研究を置いておいていただきたいということです。大阪大学で学ばれたみなさんには、そのような務めと責任とをこれから社会のなかでしっかりと果たしていただきたいと強く願うものです。そういうマインドをもつことによって、「大阪大学で学んだ学生は一味違う」と言ってもらえるような、そうした信頼感のある研究者になっていただければ、大阪大学としてこれに優る喜びはありません。

最後になりましたが、みなさんお一人お一人がこれからの長い生涯、健康と幸運に恵まれ、悔いのない人生を送られることを祈りつつ、わたしの式辞といたします。

走りきった阪大生達

～09AEARUサマーキャンプの運営を終えて

AEARU（東アジア研究型大学協会）は中国、韓国、台湾、日本の17の有力大学で構成されている国際大学連合であり、研究者や学生の交流などを目的としています。主要な事業の1つに加盟大学の学部生の国際交流を目的とした学生サマーキャンプがあり、今年度本学が初めてホストに名乗りをあげました。運営委員長の山内直人教授（国際交流室／国際公共政策研究科）の呼びかけに、様々の学部から30名を超える学生が応じ、今年の4月下旬に教職員と学生から成るサマーキャンプ運営委員会が発足しました。

各国の学部生を阪大に招待するキャンプであるため、ホスト側としても阪大の学生中心で企画運営しようと、私たち学生委員は活動を開始しました。学生達が知恵を絞って考えた統一テーマは、「Think and Act: How we can contribute for the next generation」。最初は何から始めてよいのかさえわかりませんでした。先生方のアドバイスをいただきながら、委員会の組織作りから始め、研究室訪問、ファッションショー、ディスカッション、クルージング、文化体験、企業訪問、英語落語など、思いっきり欲張った企画を並べました。

本番は8月16日～23日。やはりこの期間が一番大変でした。頭も体もフル回転で、運営委員の疲労はピークに達していました。さらにキャンプ2日目には恐れていたインフルエンザ感染者が出てしまい、私たちは集団感染を防ぐため昼夜走り回ることとなりました。苦労続きの運営であ



りましたが、「最高のキャンプをありがとう」という参加学生の言葉をもらい、盛況のうちにキャンプは終了しました。

このキャンプの運営を通して、私達は「自分の頭で考え、自分の足を使って動き、協力して新しいものを創造すること」を学びました。言葉にしていれば簡単なように聞こえますが、これを達成するために必要な要素として個々のリーダーシップ、バランス感覚、論理的思考、体力、コミュニケーション能力、時間管理術など枚挙にいとまがありません。そして見知らぬ者同士だった私たちは、苦楽を共にし、教職員・学生の絆を超えた絆と自信という財産を得ました。これらは机上の勉強では決して得られないものだと思います。「やる気のない地味な阪大生」というレッテルも見事に払拭することができました。最後に、このキャンプを成功に導いていただいた大学内外の多くの方々に感謝申し上げます。

なお、今回のサマーキャンプの詳細については、以下のホームページをご覧ください。

ホームページ：<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/international/iab/eventdetail090624.html>

09AEARU サマーキャンプ運営委員会学生代表
経済学部 3回生 田崎千尋
(国際交流室)

水都大阪2009に協力

8月22日(土)から10月12日(月・祝)まで開催されました「水都大阪2009」において、大阪大学は、適塾を会場とした関連イベントに協力し、それぞれ大勢の方々が来場されました。

【水都アート回廊】

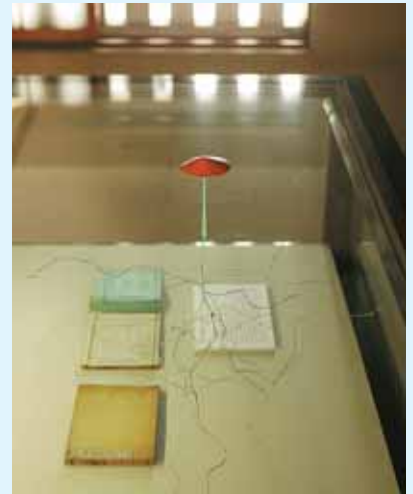
水都大阪が育んできた歴史的な建物や空間にアート作品を一時設置し、大阪の歴史や文化を浮き彫りにさせる、水都大阪2009のプログラムのひとつである「水都アート回廊」。

大阪大学では、適塾がプログラムに協力し、期間内、大阪出身のアーティスト今村 源先生の作品「茸的熟考」が展示されました。

適塾は、江戸時代の町家の姿を留める貴重な建築(史跡、重要文化財)であり、今村氏の作品は、吹き抜ける土間、1階から2階への繋がり、庭を含めた見通しのきく開放的な心地よい空間の、その1、2階の境目を地下と地上の境界と見立て、そこを行き来するキノコが存在をよりどころ



にして広がる見えない世界を建築空間に柔らかに寄生させ、重ね合わせてみるという、適塾の歴史的空間を利用した神秘的な作品を多くの方々が見学者に訪れました。



【適塾寄席】

NHK大阪放送局の情報番組「ぐるっと関西おひるまえ」が、水都ウィークと題して、放送とイベントで水都大阪2009の魅力を伝える企画の中で、大阪大学が協力し、水都アート回廊に参加している適塾を会場に、9月13日(日)夜、同番組の司会を務める桂よね吉さんらの落語会が開かれました。



適塾を会場にした初めての催しでしたが、50名の座席に250名を超える応募があり、当日は、早い時間から大勢の来場者が列を作り大変盛況な催しとなりました。演者の熱演もあり、参加者の方々は、適塾という場所で貴重な体験ができた喜んでおられ、是非昼間にも適塾を訪れたいとの声が聞かれました。



(広報・社会学連携事務室)

「アートエリアB1」が「文化庁長官賞(メセナアワード2009)」受賞 大阪大学、NPOダンスボックス、京阪電気鉄道(株)主催

大阪大学・NPOダンスボックス・京阪電気鉄道(株)が主催、本学の社会学連携の窓口である21世紀懐徳堂が共催、社会貢献活動を使命としているコミュニケーションデザイン・センター(CSCD)が企画制作を担当し、京阪電車中之島線なにわ橋駅「アートエリアB1」で実施している社会学・連携文化活動に対して、9月30日(水) 社団法人企業メセナ協議会「メセナアワード2009」の「文化庁長官賞」が授与されました。

「メセナアワード2009」は、2008年度に実施された芸術文化支援活動を対象として、芸術文化の振興に高く貢献した企業・企業財団を表彰するもので、「アートエリアB1」を主催している企業として京阪電気鉄道(株)が、芸術文化の振興に高く貢献し、かつ地域活性や、次世代育成に関わるメセナ活動を表彰する「文化庁長官賞部門」に応募し、「アートエリアB1」の活動が高く評価されました。

「アートエリアB1」は、2008年10月19日(日)に開通した京阪電車中之島線「なにわ橋駅」地下1階コンコースのギャラリーやスタジオ機能を備えたコミュニティスペースで、科学技術・減災・臨床・アート・哲学など、幅広い分野にわたるテーマを取り上げ、一般市民・学生などが自由な議論を交わす参加型の対話プログラム(ラボカフェ)、ダンスパフォーマンス、公開作品制作などの多彩なプログラムを実施し、「停車場としての駅」から「コミュニケーション空間としての駅」として「なにわ橋駅」が中之島エリアの文化・芸術・知の創造と交流の場となることを目指しています。

この取組は、2006年10月13日(金)～15日(日)の3日間、京阪電鉄中之島線「なにわ橋駅」の建設工事現場で、CSCD・企業・アートNPOとの共同による社会学連携プロジェクト「駅の可能性」を模索するためのイベントの開催から始まり、翌2007年10月12日(金)～14日(日)の3日間、



「カフェ・アオキ in 大阪～都市と文化」
(平成21年6月4日開催)



「カフェ・アオキ in 大阪～都市と文化」
(平成21年6月4日開催)

未完成の駅空間を活用し新しい駅を、大学の知、アートの力、地域の元気を活かしながら、中之島エリアの文化芸術の創造と交流の場にするためのイベント「eX-station 可能性の駅」を開催し、様々な試みを通じて、多様な駅の活用法を提示し、これを受けて、京阪電

気鉄道(株)は、中之島線「なにわ橋駅」地下1階コンコースにギャラリーやスタジオ機能を備えたコミュニティスペースを設置し、「アートエリアB1」と命名しました。

京阪電気鉄道(株)は、2008年10月19日(日)に中之島線開業イベントを「アートエリアB1」で挙行之、以後、「知とアートによるコミュニケーション空間としての駅」を実現するため、大阪大学・NPOダンスボックス・京阪電気鉄道(株)から「アートエリアB1」の運営を行う委員を選出して、開催イベントの選考を行い事業を開始しました。

本学は、主に「ラボカフェ」を週2～3回、午後7時から2時間程度開催し、CSCDが企画制作しています。「ラボカフェ」は、参加者が自由な議論を行う対話型プログラムで、科学技術・臨床・アート・哲学など、さまざまなテーマを取り上げ、ビジネスマンやOL、学生、高齢者など幅広い一般の参加者が専門知識に触れ、見知らぬ人と意見交換できる機会を提供し、「なにわ橋」が中之島エリアの「文化・芸術・知の創造と交流の場」となることを目指しています。

本学は、2009年度も継続して「ラボカフェ」を実施しています。また、大阪の水辺文化の検証や中之島地域の活性化を目的とした「水都大阪」に連携する事業も実施しています。

今回の受賞は、これまでのプロジェクトに対する社会的評価と今後への期待の現れであり、2010年度以降も継続して実施し、中之島地域に根付いた社会学連携活動と認められることが重要となります。



ラボカフェ



鉄道カフェ

平成21年度 大阪大学係長研修(新任)実施

平成21年度大阪大学係長研修(新任)が、9月7日(月)～9日(水)までの3日間にわたりコンベンションセンターで行われました。

本研修は、本学または出向先機関において新たに係長及び係長相当職になった者32名を対象として、「その職務遂行に必要な基本的・一般的知識を習得させるとともに、監督者としての能力及び識見を確立させ、大学行政の管理運営の重要な担い手として職員の資質の向上を図る」ことを目的として、実施されたものです。

月岡英人理事・副学長による開講式挨拶の後、学外の研



開講式(月岡理事・副学長挨拶)



演習風景

修講師による講義・演習により研修が進められました。

受講生は普段と異なる雰囲気の中、講義、実習を通して、部下の指導方法、業務管理や折衝・調整力などについて学び、係長に求められる役割について認識を深めました。また、グループワークにおいては、討議や発表などを通じて活発な意見交換が行われました。

受講生全員が意欲的に課題に取り組み、所定の課程を修了しました。

(総務部人事課)

大阪大学で個人情報保護セミナーを開催

10月2日(金)、総務省行政管理局個人情報保護室 小野隆之個人情報保護第一係長を講師として招き、各部局の個人情報保護管理者及び保護担当者等を対象として、個人情報保護セミナーを開催しました。

このセミナーは、個人情報保護に関する意識の高まりとともに、ますます大学が保有する個人情報の適切な管理が求められていることから、大学に関する諸課題についての研修の一つとして企画されたものであり、参加者は、個人情報保護制度の運営に当たっての留意点や個人情報保護制度を取り巻く最近の動向について認識を深め、今後の保有個人情報の適切な管理に活かせるよう熱心に聴講しました。

(企画部評価課)



講演中の小野隆之氏

「研究支援員制度」利用者インタビュー

大阪大学は、平成 19 年度文部科学省科学技術振興調整費女性研究者支援モデル育成事業による「次世代に繋ぐ女性研究者サポート連鎖の形成」の採択を受け、平成 19 年 11 月より「研究支援員制度」を開始しました。「研究支援員制度」とは、出産・育児・介護等で研究時間が確保できにくくなっている女性研究者の研究面での支援を行うため、同じ研究分野の院修了者・卒業生・学生を「支援研究者」や「研究補助員」として採用・配置するものです。これは同時に、支援する院修了者・卒業生・学生に対しても、ロールモデルと接することによりキャリア形成を促すことをねらいとしています。

今回は、本制度利用者として、と林 陽子日本学術振興会特別研究員（RPD）と亀井綾子研究補助員にお話を伺いました。

インタビューア

「本制度を利用されていかがですか。」

林特別研究員

「女性支援制度を利用させていただき、亀井さんに来てもらうようになってから、半年が経ちました。亀井さんはとても気が利く方で要領がよく、マンパワーが必要なプロジェクトを手伝ってもらって私自身はとても助かっています。ただ、たまたま素敵な人を派遣していただくことができた私はとてもハッピーですが、支援制度は今年度で終了かと聞いております。できれば一過性の支援に止まらず、もっと幅広く多くの子育て中の方を支援できるような制度が作られ、願わくは亀井さんの世代の方々が子育てをすることになったときに、彼女たちがスムーズに利用できるものであったらいいなと思わずにはいられません。」

亀井研究補助員

「今させていただいていることは、学部の実習ではやったことがないものなのですが、実習の進め方・器具や機械



の使い方などはもちろん、細部に至るまで、懇切丁寧に教えてくださるので、とても楽しく勉強させていただいております。林先生をはじめ、研究室にいらっしゃる方々は皆さんとても親切に接してくださり、とても恵まれた環境だと感じます。

林先生は、小さなお子様の子育てをなさりながら毎日研究活動を続けていらっしゃるお方で、人一倍お忙しくいらっしゃるのに、研究室で楽しそうにてきばきとお仕事をこなしていらっしゃいます。このような先輩に実習を教えていただけることはこの上ない喜びであり、私自身も、日々精進していきたいと強く思いました。

最後になりましたが、このような素晴らしい機会を与えてくださった女性研究者キャリア・デザインラボに心から感謝しております。」

インタビューア

「ありがとうございます。お二人とも楽しそうに実験をなさっていて、私どもといたしましてもうれしい限りです。お二人のご活躍をお祈りいたします。」

（女性研究者キャリア・デザインラボ）

第48回全国七大学総合体育大会得点表

Seven Universities Movement! Hokkaido , Tohoku , Tokyo , Nagoya , Kyoto , Osaka , Kyushu

競技名		参加 校数	北海道大学		東北大学		東京大学		名古屋大学		京都大学		大阪大学		九州大学	
			順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
アイスホッケー		7	1	10	3	6	2	8	6	2	7	1	5	3	4	4
スキー		5	不参加		不参加		1	10	4	4	2	8	3	6	5	3
航空		7	7	1	5	3	1	10	4	4	2	8	3	6	6	2
馬術		5	2	4	1	6	3	3	オープン参加		4	1.5	該当団体なし		4	1.5
柔道		7	2	8	3	5	5	3	1	10	6	1.5	6	1.5	3	5
バスケットボール	男子	7	3	6	6	2	1	10	2	8	7	1	4	4	5	3
	女子	7	6	2	2	8	7	1	3	6	1	10	4	4	5	3
硬式庭球	男子	7	4	4	3	6	2	8	6	2	1	10	7	1	5	3
	女子	7	2	8	4	4	6	2	1	10	3	6	5	3	7	1
少林寺拳法		7	5	3	4	4	3	6	7	1	2	8	1	10	6	2
ヨット		7	6	2	2	8	4	4	7	1	1	10	5	3	3	6
水泳	男子	7	4	4	6	2	7	1	2	8	3	6	1	10	5	3
	女子	7	3	6	5	3	4	4	6	2	2	8	1	10	7	1
剣道	男子	7	1	10	4	4	3	6	5	3	6	2	7	1	2	8
	女子	7	6	2	4	4	1	10	7	1	3	6	5	3	2	8
空手道	男子	7	7	1	6	2	1	10	5	3	4	4	2	8	3	6
	女子	7	2	8	7	1	1	10	6	2	5	3	4	4	3	6
陸上	男子	7	6	2	2	8	5	3	4	4	3	6	1	10	7	1
	女子	7	2	8	7	1	4	4	3	6	5	3	1	10	6	2
硬式野球		6	6	2	2	8	5	3	3	6	1	10	4	4	不参加	
バレーボール	男子	7	5	3	2	8	6	2	4	4	1	10	7	1	3	6
	女子	7	3	6	6	2	5	3	4	4	1	10	7	1	2	8
フェンシング		4	該当団体なし		1	6	3	3	該当団体なし		2	4	4	2	不参加	
ラクロス	男子	雨天のため競技中止														
	女子	雨天のため競技中止														
準硬式野球		5	不参加		1	10	不参加		2	8	4	4	3	6	5	3
ハンドボール		7	7	1	4	4	3	6	1	10	6	2	2	8	5	3
相撲		5	該当団体なし		4	2	3	3	1	6	2	4	該当団体なし		5	1
バドミントン	男子	7	3	6	6	2	5	3	7	1	4	4	2	8	1	10
	女子	7	1	10	3	6	5	3	2	8	7	1	6	2	4	4
アーチェリー		6	6	2	不参加		1	10	3	6	4	4	2	8	5	3
体操		7	4	4	2	8	3	6	5	3	6	2	1	10	7	1
自動車		7	6	2	3	6	2	8	5	3	7	1	1	10	4	4
弓道	男子	7	3	6	1	10	4	4	6	2	2	8	5	3	7	1
	女子	7	4	4	1	10	2	8	3	6	6	2	7	1	5	3
ゴルフ		7	5	3	4	4	3	6	2	8	1	10	6	2	7	1
ソフトテニス	男子	7	7	1	6	2	4	4	5	3	2	8	1	10	3	6
	女子	7	1	10	5	3	7	1	6	2	3	6	2	8	4	4
ソフトボール		6	該当団体なし		3	4	4	3	5	2	1	8	2	6	6	1
卓球	男子	7	4	4	3	6	1	10	5	3	2	8	7	1	6	2
	女子	7	4	4	3	6	2	8	5	3	7	1	1	10	6	2
総 合 得 点			157		184		207		165		210		198.5		131.5	
順 位			6 位		4 位		2 位		5 位		1 位		3 位		7 位	

得点表

該当団体数	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
7	10	8	6	4	3	2	1
6	8	6	4	3	2	1	
5	6	4	3	2	1		
4	4	3	2	1			

- ・ 該当団体数とは、当該競技種目に該当し、体育会に所属する運動部を有する大学数を指します。(すなわち、上の表で言うところの「大学数」です。)
- ・ 参加校数とは実際に七大学に参加した大学数を指します。
馬術競技の名古屋大学のオープン参加について、規約24条2項を適用し、特段の事情により該当団体なしとする



七大学公式ホームページ <http://www.7-u.jp/>

馬越 大准教授「日本膜学会膜学研究奨励賞」受賞
菅 啓嗣君「日本膜学会ポスター賞」受賞

基礎工学研究科物質創成専攻化学工学領域の馬越 大准教授が、日本膜学会において、膜学研究奨励賞を受賞しました。

この賞は、膜学の発展に貢献した若手研究者に毎年贈られるものです。馬越准教授の受賞理由は、モデル生体膜であるリン脂質の閉鎖系小胞（リポソーム）の応用技術に関するものであり、LIPOzyme Process Chemistry という新しい領域を創成したことに対するものです。受賞題目「LIPOzyme Process Chemistry の創成に関する基礎工学的研究」からも分るように、本研究科の創設理念を真摯に実践して得られた成果が高く評価されました。

また、同日、当グループ所属の大学院博士前期課程2年生の菅 啓嗣君が「荷電性リポソームによる in vitro GFP 発現プロセスの素過程制御」の題目でポスター賞を受賞しました。

受賞式ならびに記念講演は5月22日(金)に東京・東京理科大学の森戸記念館にて行われました。

(基礎工学研究科・基礎工学部)



馬越准教授（右）と菅啓嗣君（左）

Sastia Purama Putriさん「42nd annual meeting of the Society of Invertebrate Pathology (SIP) 1st winner of Best Oral Presentation Award」受賞

工学研究科生命先端工学専攻バイオテクノロジー英語特別コース博士後期課程1年のSastia Purama Putriさんが8月に米国ユタ州で開催された国際会議42nd annual meeting of the Society of Invertebrate Pathology (SIP)において発表を行い、1st winner of Best Oral Presentation Awardを受賞しました。

この賞は、本会議において最も優れた口頭発表を行った学生に対して授与されるもので授賞式は、8月20日(木)本会議のクロージングセレモニーのなかで行われました。

受賞の対象となった研究は、「Utilization of entomopathogenic fungi for the control of plant pathogenic oomycetes」です。

この研究は、昆虫病原性糸状菌が、大豆、サトウダイコン（テンサイ）に害を及ぼす病原菌に対して、繁殖を阻害する様々な物質を生産していることを明らかにしたものです。今回の発表では420株にも渡る幅広い菌を用いて抗菌物質生産を調べていること及びこれまで報告例のない新し



い化合物を発見したことが高く評価されました。また、Sastiaさんはstudent representative for the Fungi Division of SIP for 2009-2011にも選出されました。

(工学研究科・工学部、生物工学国際交流センター)

宮本聖子さん「15th International Symposium on the Biology of Actinomycetes Sueharu Horinouchi Prize」受賞

工学研究科生命先端工学専攻生物工学コース博士後期課程3年の宮本聖子さんが8月に中国・上海で開催された国際放線菌学会（International Symposium on the Biology of Actinomycetes）において発表を行い、Sueharu Horinouchi Prizeを受賞しました。

この賞は、本学会において最も優れたポスター発表を行った参加者1名に対して授与されるもので授賞式は、8月24日(月)本学会のクロージングセレモニーのなかで行われました。受賞の対象となった研究は、「Autoregulator-signalling cascades in *Streptomyces avermitilis*」です。この研究は、有用抗生物質を生産する微生物である放線菌 *Streptomyces avermitilis* において、多くの遺伝子が抗生物質の生産挙動に複雑に関与していることを分子生物学的また生物有機化学的手法を用いて詳細に明らかにしたものです。今回の発表では、抗生物質の生産をコントロールするシグナル伝達経路が現在までに報告されている1系統だけではなく、2系統が独立して存在することを見いだした点が高く評価されました。

（工学研究科・工学部、生物工学国際交流センター）



中田一博所長ハルビン工業大学(中国)顧問教授就任

8月23日(日)、接合科学研究所の中田一博所長は、中国のハルビン工業大学材料学院の顧問教授に就任いたしました。就任式では副校長・任南琪教授、材料学院長・馮吉才教授、国際協力部長・范洪波博士らの歓迎を受け、顧問教授任命書が授与されました。接合科学研究所は、以前からハルビン工業大学と学术交流協定を締結していますが、今後、さらに学術研究において交流や協力を進めていくことをあらためて協議しました。

（接合科学研究所）



新役員紹介

土 井 健 史 (どい たけふみ)

理事・副学長(評価担当)



【略歴】

- 昭54. 3 大阪大学薬学部製薬化学科
- 56. 3 大阪大学大学院薬学研究科薬品化学専攻修士課程修了
- 59. 3 大阪大学大学院薬学研究科薬品化学専攻博士課程修了
- 59. 3 薬学博士(大阪大学)
- 60. 4 米国マサチューセッツ工科大学生物学部研究員
- 63.11 大阪大学薬学部助手
- 平 4. 1 大阪大学薬学部助教授
- 10. 4 大阪大学薬学研究科教授
- 20. 4 大阪大学評議員(平21.9まで)
- 21.10 大阪大学理事・副学長

新教授紹介

佐 藤 眞 一 (さとう しんいち)

大学院人間科学研究科



【略歴】

- 昭55. 3 早稲田大学教育学部卒業
- 57. 4 国立精神保健研究所老年精神医学部研究生(昭62.3まで)
- 57.10 早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士前期課程修了
- 59. 4 (財)東京都老人総合研究所心理・精神医学部研究生(昭62.3まで)
- 62. 3 早稲田大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期課程単位取得退学
- 62. 4 (財)東京都老人総合研究所心理・精神医学部研究員
- 平 9. 4 明治学院大学文学部助教授
- 11. 5 博士(医学)(埼玉医科大学)
- 14. 9 Max Planck Institute for Demographic Research in Germany上級客員研究員(平15.8まで)
- 16. 4 明治学院大学心理学部教授
- 21.10 大阪大学教授大学院人間科学研究科

所 属：大学院人間科学研究科人間科学専攻人間行動学講座
専門分野：老年学、老年心理学

澤 村 信 英 (さわむら のぶひで)

大学院人間科学研究科



【略歴】

- 昭57. 3 愛媛大学理学部卒業
- 57.10 国際協力事業団青年海外協力隊隊員マラウイ理数科教師(昭59.9まで)
- 61. 3 愛媛大学大学院理学研究科地球科学専攻修了
- 61. 4 国際協力事業団職員
- 平 5. 8 連合王国エディンバラ大学アフリカ研究センターにおいて研修(平7.8まで)
- 9. 5 広島大学助教授教育開発国際協力研究センター
- 18. 5 博士(人間科学)(大阪大学)
- 19. 4 広島大学准教授教育開発国際協力研究センター
- 20. 4 広島大学教授教育開発国際協力研究センター
- 21. 9 大阪大学教授大学院人間科学研究科

所 属：大学院人間科学研究科グローバル人間学専攻人間開発学講座
専門分野：アフリカ教育開発論

新教授紹介

植 松 利 夫 (うえまつ としお)

大学院法学研究科



【略歴】

- 平 5. 3 東京大学法学部卒業
 5. 4 大蔵省主計局総務課
 6. 5 大蔵省主計局調査課
 7. 6 フランス留学
 9. 7 大蔵省大臣官房調査企画課
 11. 7 内閣官房内閣内政審議室(内閣総理大臣秘書官補)
 12. 7 厚生省保険局国民健康保険課課長補佐
 13. 1 厚生労働省保険局国民健康保険課長補佐
 14. 7 金融庁総務企画局信用課課長補佐
 16. 7 財務省主計局主計官補佐(厚生労働第六、七係主査)
 17. 7 財務省主計局主計官補佐(厚生労働第五係主査)
 18. 7 財務省主計局主計官補佐(厚生労働第三係主査)
 20. 7 財務省主計局主計官補佐(厚生労働第一、二係主査)
 21. 8 大阪大学教授大学院法学研究科

所 属：大学院法学研究科法学・政治学専攻
 専門分野：立法論・社会保障法

藤 尾 慈 (ふじお やすし)

大学院薬学研究科



【略歴】

- 昭62. 3 大阪大学医学部医学科卒業
 平 3. 5 大阪大学大学院医学系研究科神経生化学博士課程単位
 修得退学
 3. 6 大阪大学医学部内科学第三講座研究生
 4. 7 大阪府立成人病センター第一内科
 6. 2 博士(医学)(大阪大学)
 7. 1 大阪大学医学部内科学第三講座研究生
 8. 7 大阪大学医学部附属病院医員
 9. 9 米国タフツ大学聖エリザベス病院研究員
 11. 8 大阪大学大学院医学研究科分子病態内科学講座研究生
 12. 1 大阪大学医学部附属病院医員
 14. 9 大阪大学助教授大学院薬学研究科
 19. 4 大阪大学准教授大学院薬学研究科
 21.10 大阪大学教授大学院薬学研究科

所 属：大学院薬学研究科応用医療薬科学専攻
 臨床薬効解析学分野
 専門分野：循環器内科学、臨床薬理学

関 修 平 (せき しゅうへい)

大学院工学研究科



【略歴】

- 平 3. 3 東京大学工学部原子力工学科卒業
 5. 3 東京大学大学院工学系研究科原子力工学専攻修士課程
 修了
 7. 6 東京大学大学院工学系研究科システム量子工学専攻第
 種博士課程中退
 7. 7 大阪大学助手産業科学研究所
 13. 4 博士(工学)(大阪大学)
 14. 4 大阪大学助手産業科学研究所附属産業科学ナノテク
 ロジーセンター
 15. 1 大阪大学助教授産業科学研究所附属産業科学ナノテク
 ロジーセンター
 18. 3 大阪大学助教授産業科学研究所
 19. 4 大阪大学准教授産業科学研究所
 19.10 大阪大学准教授大学院工学研究科
 21.10 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科応用化学専攻分子創
 成化学講座
 専門分野：高分子化学

新教授紹介

望 月 正 人 (もちづき まさひと)

大学院工学研究科



【略歴】

- 平元. 3 京都大学工学部機械工学科卒業
- 元. 4 株式会社日立製作所
- 7. 8 株式会社日立製作所研究員
- 9.11 博士(工学)(京都大学)
- 10. 7 大阪大学助手大学院工学研究科
- 11.10 大阪大学講師大学院工学研究科
- 16. 4 大阪大学助教授大学院工学研究科
- 19. 4 大阪大学准教授大学院工学研究科
- 21.10 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科マテリアル生産科学
専攻構造化デザイン講座
専門分野：熱加工力学、材料力学、プロセスメカ
ニックス

森 川 良 忠 (もりかわ よしただ)

大学院工学研究科



【略歴】

- 平元. 3 京都大学理学部卒業
- 3. 3 京都大学大学院理学研究科化学専攻修士課程修了
- 4. 4 日本学術振興会特別研究員
- 6. 3 東京大学大学院理学系研究科物理学専攻博士課程修了
- 6. 3 博士(理学)(東京大学)
- 7. 4 通商産業省工業技術院産業技術融合領域研究所研究員
- 10.10 通商産業省工業技術院産業技術融合領域研究所主任研究官
- 13. 4 独立行政法人産業技術総合研究所主任研究員
- 16. 3 大阪大学助教授産業科学研究所
- 19. 4 大阪大学准教授産業科学研究所
- 21.10 大阪大学教授大学院工学研究科

所 属：大学院工学研究科精密科学・応用物理学専攻精密科学講座
専門分野：固体電子論、量子シミュレーション

近 藤 滋 (こんどう しげる)

大学院生命機能研究科



【略歴】

- 昭57. 3 東京大学理学部卒業
- 59. 3 大阪大学大学院医学研究科修士課程医科学専攻修了
- 59. 4 大阪大学大学院医学研究科博士課程生理系専攻(～昭60.3まで)
- 62.10 日本学術振興会特別研究員(東京大学医学部)(～平2.9.29まで)
- 63. 3 京都大学大学院医学研究科博士課程修了
- 63. 3 博士(医学)(京都大学)
- 平 2. 9 日本学術振興会海外特別研究員(Basel大学)(～平4.9.29まで)
- 4.10 Basel大学Biozentrum研究員(～平5.3.30まで)
- 5. 4 京都大学助手遺伝子実験施設
- 7. 8 京都大学講師大学院医学系研究科
- 9. 4 徳島大学教授総合科学部
- 14. 4 独立行政法人理化学研究所発生再生科学総合研究センター・チームリーダー
- 15.12 名古屋大学教授大学院理学研究科
- 21. 8 大阪大学教授大学院生命機能研究科

所 属：大学院生命機能研究科時空生物学講座
専門分野：形態形成学、理論生物学

新教授紹介

清水 康次 (しみず やすつぐ)

大学院文学研究科



【略歴】

- 昭52. 3 京都大学文学部文学科国語学国文学専攻卒業
- 54. 3 京都大学大学院文学研究科国語学国文学専攻修士課程修了
- 54. 4 大阪女子大学文芸学部助手
- 59. 6 大阪女子大学文芸学部専任講師
- 63. 4 大阪女子大学文芸学部助教授
- 平 4. 4 光華女子大学文学部助教授
- 7. 4 光華女子大学文学部教授
- 7. 7 博士(文学)の学位授与(京都大学)
- 13. 4 京都光華女子大学日本語日本文学科教授
- 21.10 大阪大学大学院文学研究科教授

所 属：大学院文学研究科文化動態論専攻文学
環境論講座

専門分野：日本近代文学、書誌出版文化研究

井畑敏一名誉教授(理学部)逝去



本学名誉教授井畑敏一先生は、8月8日(土)にご逝去されました。享年74歳でした。

先生は、昭和33年3月大阪大学理学部化学科をご卒業後、昭和37年3月同大学院を修了され、同年4月大阪大学産業科学研究所助手、昭和39年4月同教養部講師に昇任され、昭和39年12月理学博士(大阪大学)の学位を授与されました。昭和43年4月大阪大学教養部助教授、昭和62年12月同教授に昇任され、平成6年4月大阪大学理学部教授に

配置換、平成8年4月同大学院理学研究科教授に配置換えられました。この間、平成5、6年度、平成8、9年度に評議員、平成6年度には初代の共通教育機構教務部長を歴任され、大学の教育および運営に多大な貢献をされました。特に、大学組織の変革期に、共通教育の新体制への移行に中心的な役割を果たされました。平成10年4月大阪大学を定年退官、名誉教授の称号を授与されました。

先生は、有機化学の分野において、新しい活性種を巧みに用いて新規有機合成反応を開拓することによって、他の方法では調製が難しい有用有機化合物の合成を可能にする等の成果を挙げられました。先生のご研究の一端を挙げますと、ヘテロ環を含む有用有機化合物の合成に関する研究、オキサゾール類を用いる付加環化反応に関する研究、超高圧におけるアミンと芳香族ハロゲン化物の求核置換反応に関する研究などがあり、いずれもユニークな発想を新たな化学反応の開拓に結び付けられた画期的成果であり、有機化学の発展に多大な貢献をなされました。

ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

(理学研究科・理学部)

大阪大学フォーラム2009(クアラルンプール)

本学では、研究者の優れた研究活動を広く海外に発信するため、毎年、大阪大学フォーラムを開催しています。

第9回を迎える今年度は、マレーシア教育省の協力を得て、本学や東南アジア各国の研究者が、日本語・日本文化分野での研究・教育に関する講演や発表などを行います。

開催期間：11月3日(火)～4日(水)

開催場所：マレーシア教育省国際言語教員養成所(クアラルンプール)

International Languages Teacher Training Institute [IPBA]

テーマ：東南アジアにおける日本語・日本文化教育の21世紀的展望

- 東南アジア諸国と日本との新たな教育研究ネットワークの構築を目指して -

The 21st Century Approach to Japanese Studies Programmes in Southeast Asia :

Towards the Creation of a New Academic Network between Japan and Southeast Asia

開催内容：講演、研究発表、パネルディスカッション

主催：大阪大学、マレーシア教育省

実行委員長：奥西峻介(日本語日本文化教育センター長)

ホームページ：<http://www.cjlc.osaka-u.ac.jp/forum2009/index.html>

お問い合わせ：日本語日本文化教育センター共同研究室(フォーラム事務局)

電話 / Fax : 072 - 730 - 5459

E-mail : handai-forum2009@cjlc.osaka-u.ac.jp



(国際部国際交流課)

大阪大学総合学術博物館第9回企画展 維新派という現象「ろじ式」

維新派は大阪を拠点に活動する現代日本を代表する劇団です。1970年の旗揚げ以降、従来の演劇の枠にとらわれない創作を続け、90年代には「チャンちゃん オペラ」と称する独創的な上演スタイルを確立しました。野外劇場・巨大な舞台美術・変則的なリズムのセリフ・ダンスなどを特徴としていますが、それらの要素は維新派独特の世界観のもと、有機的に融合され、表現されます。その総合芸術としての作品は世界的にも高く評価されています。

本企画展では大阪を代表する劇団である維新派の歴史とその芸術を紹介いたします。今回の企画展では関連の資料を陳列するだけでなく、今秋予定されている新作「ろじ式」の公演にあわせ、その世界を体感できる展示を行います。

会期：10月1日(木)～12月12日(土) 10時30分～17時 日曜・祝日は休館。ただし11月1日(日)、3日(火・祝)は開館。

入館料：無料

会場：大阪大学総合学術博物館 待兼山修学館

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：維新派、大阪大学大学院文学研究科

協力：早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、大阪大学21世紀懐徳堂

ミュージアム・レクチャー

会場：館内3階セミナー室

(聴講自由、30分前より受付開始。会場の都合により入場できないことがあります。)

第16回 11月2日(月) 14:00 正木喜勝(文学研究科)「維新派の40年」

第17回 11月3日(祝) 14:00 市川 明(文学研究科)「チャンちゃん オペラから20世紀三部作へ - 維新派と1920年代のドイツ・アヴァンギャルド」

第18回 11月7日(土) 14:00 松本雄吉(維新派主宰)「維新派の作り方」

シンポジウム「維新派とその時代」

日時：11月28日(土) 14:00 会場：館内3階セミナー室 入場無料

パネリスト：松本雄吉(維新派主宰) 扇田昭彦(演劇評論家) コディ・ポールトン(ヴィクトリア大学/カナダ)

司会：永田 靖(大阪大学文学研究科)

維新派パフォーマンス

12月5日(土) 14:00 会場：待兼山修学館前広場 料金：無料

大阪大学総合学術博物館 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20 TEL: 06 - 6850 - 6284

<http://www.museum.osaka-u.ac.jp>

(総合学術博物館)



第50回大阪大学まちかね祭(大学祭)

大阪大学豊中キャンパスで開催されるまちかね祭では例年、日頃のクラブ・サークル活動における成果の発表やステージでのライブ、スポーツ大会、研究室開放、模擬店などの企画が行われ、本学学生だけでなく学外からも多くの来訪者で賑わっています。

記念すべき50回目を迎えた今回は、「千客阪大」をテーマに、より一層の盛り上がりを目指します。

大阪外国語大学との統合を経て、さらに多種多様で大規模となったまちかね祭への皆様のご参加をお待ちしております。

開催期間：11月1日(日)～11月3日(火・祝) 10:00～

開催場所：大阪大学豊中キャンパス(豊中市待兼山町)

アクセス：阪急電車宝塚線「石橋駅」下車、徒歩15分 大阪モノレール「柴原駅」下車、徒歩10分

主なイベント：「Miss&Mr. 阪大 CONTEST2009」・「O-1 グランプリ 2009 ～オオサカ オワライ オレガ イチバン～」・
「ウイニングイレブン大会 2009」・「LIVE IN HANDAI 2009」・「レーザーショー」など盛りだくさん!!

詳しくは、まちかね祭ホームページ「第50回まちかね祭」(<http://www.machikanesai.com/>)でご確認ください。

お問い合わせ先：大阪大学大学祭中央実行委員会 豊中市待兼山町1-10 大阪大学学生部学生交流棟気付

TEL / FAX : 06 - 6857 - 1806 Mail : info@machikanesai.com



大阪大学室内楽アンサンブル第9回演奏会

大阪大学室内楽アンサンブル(OUCE)は、クラシック音楽の日常的な練習会および定期的な演奏会活動を通して、大阪大学の文化的基盤の醸成と大阪大学構成員間のコミュニケーション促進に微力を尽くすことを目的として、平成17年4月に設立されました。大阪大学の大学祭行事の一環として年2回(春・秋)、MOホールにおいて演奏会を開催し、毎回多くの方にご来聴をいただいております。

このたび第9回演奏会を下記の通り開催いたしますので、皆様、お誘い合わせの上、ご来聴賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

詳しくは、OUCEのホームページ(<http://orchestra.musicinfo.co.jp/ouce/>)をご覧ください。(※当ホームページは、クラシック音楽情報センター(<http://www.musicinfo.com>)より、サーバーの無償提供を受けています。)

問い合わせ先 shinomiya@chem.eng.osaka-u.ac.jp

日時：11月3日(火・祝) 開場：13:30 開演：14:00

場所：大阪大学コンベンションセンター MOホール 入場無料

(演奏曲目)

モーツァルト/ディベルティメント 第3番

フォーレ/6つの楽器によるパヴァーヌ

フォーレ/ピアノ四重奏曲 第2番より 第1楽章

ダンディー/古い様式による組曲

ヘンデル/チェロ四重奏によるパッサカリア

ベートーベン/ピアノ三重奏曲 第4番「街の歌」より 第2, 3楽章

ボロディン/弦楽四重奏曲 第2番より 第1, 2楽章

バッハ/ブランデンブルグ協奏曲 第4番より 第1楽章



学生・職員の喫煙率 - 5年間の変化 -

平成 15 年 5 月 1 日から施行された健康増進法 第 25 条 にもとづいて、大阪大学では平成 17 年 4 月 1 日より受動喫煙防止指針が施行され、建物内での喫煙および歩行喫煙が禁止されました。保健センターでは、学生の講義に「喫煙と健康」を取り入れ、禁煙希望者には積極的にサポートを行い、また職員を対象とした春季・秋季安全衛生集中講習会においても「喫煙による健康障害」について啓発活動を行ってきました。大阪大学受動喫煙防止指針の施行前の、平成 16 年度の学生および職員定期健康診断時に実施した喫煙に関するアンケート結果と、本年度の結果を比較してみたところ、大変興味深い結果が得られましたので、今回ご紹介いたします。

図 1 が平成 21 年度の学生の喫煙率を示していますが、図 2 の平成 16 年度と比較して喫煙率が顕著に低下し、受動喫煙防止指針実施後に変化がみられます。この間に大阪外国語大学との統合もあり女子学生数が増えています。男女とも喫煙率はおよそ半減しており、特に「禁煙した」とアンケートに答えた大学院生が目立ちました。

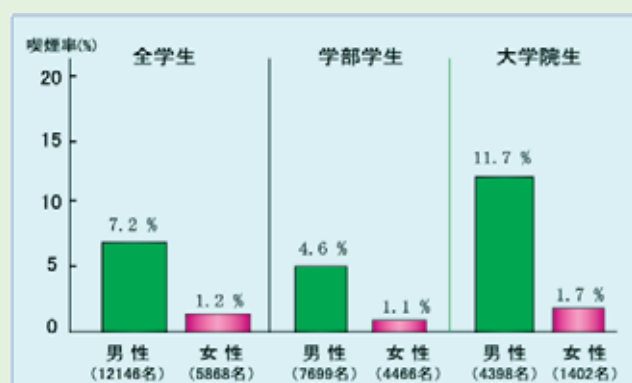


図 1 . 学生の喫煙率 (H.21 年度)

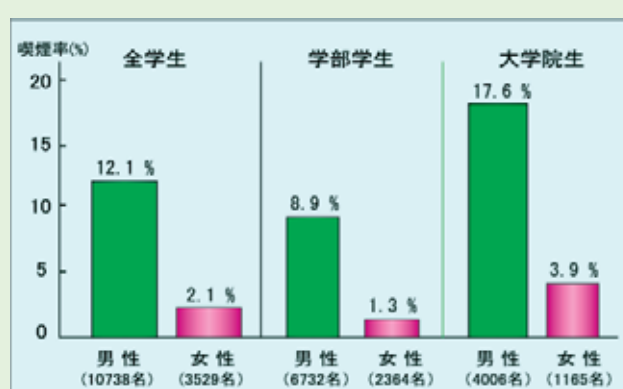


図 2 . 学生の喫煙率 (H.16 年度)

一方で、職員の喫煙率は平成 16 年度と比較して上昇しています (図 3)。特に男性の喫煙率は著しく高くなっており、本邦の男性の喫煙率が年々低下している社会の傾向に逆行しています。部局別にみると、蛋白質研究所や生命機能研究科、サイバーメディアセンターは喫煙率が 4 ~ 6% と最も低く、かつ定期健康診断の受検率は 80% 以上と、健康意識の高い部局であることがわかりました。逆に、喫煙者が部局構成員の 38 ~ 20% も占めるといった、非常に喫煙率の高い部局もありました。喫煙は、肺がんをはじめとした多くのがんや脳血管疾患や心臓病、メタボリックシンドロームとも関係しています。

学生にクリーンなキャンパスを提供できるよう、ぜひ職員の皆様のご協力とご理解をお願いします。今日からでも遅くありません、禁煙してみませんか。



図 3 . 職員の喫煙率の推移

(保健センター / 瀧原圭子)

蒜山高原の自然を満喫 ひるぜんセミナーハウス 学生の方のみでも利用できるようになります！

ひるぜんセミナーハウスは、教職員等の研修・セミナー等の施設として設置されております。

場所は、岡山県の蒜山高原にあり、自然に囲まれた絶好の場所に位置しています。

さわやかな新緑、燃えるような紅葉、真っ白な雪景色……、気候がよいときは、屋外でジンギスカン、焼肉が楽しめます。四季を通じてご利用いただけますので、研究室のセミナー旅行、ご家族・グループでの観光等にご利用ください。

なお、現在は研究室のセミナー等で教職員を利用責任者のもとに学生の方にも利用いただいておりますが、平成 22 年 4 月から学生の方のみによる利用もできるようになります。

平成 22 年 4 月からの利用の変更点は以下のとおりです。

1 利用範囲：

利用範囲	利用者の内訳
学生、教職員	1 本学の学生及びその同伴者
	2 本学の職員及び同伴者
	3 1・2 以外で総長の承認を得た者

2 利用料金：

区 分	利用料	備 考
朝 食	400 円	
夕 食	1,100 円又は 1,500 円	
利用料	1,000 円	1 泊目。2 日目以降 700 円

夕食については、定食、ジンギスカン、寄鍋（冬期限定）1,100 円、
焼肉、かに鍋（冬季限定）1,500 円 が選べます。

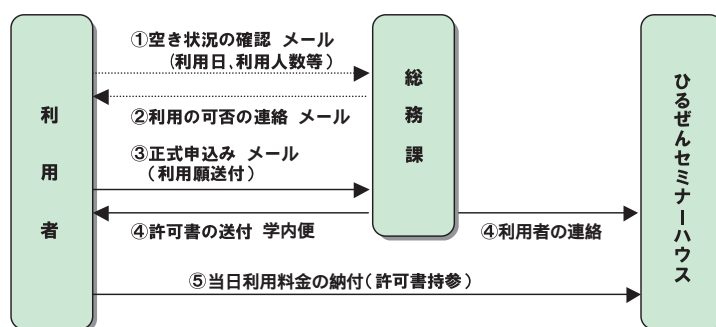
3 予約受付：利用開始日の 3ヶ月前から【学生の方は、平成 22 年 1 月から予約受付】 使用願を使用予定日の 2 週間前までに提出

4 利用申込み：メールによる申込みに変更【平成 22 年 1 月から】

申込み先：総務部総務課総務係

e-mail：soumusoumusoumu@ns.jim.osaka-u.ac.jp

【利用申込み】



※ ①～③については、e-mailにより行う。

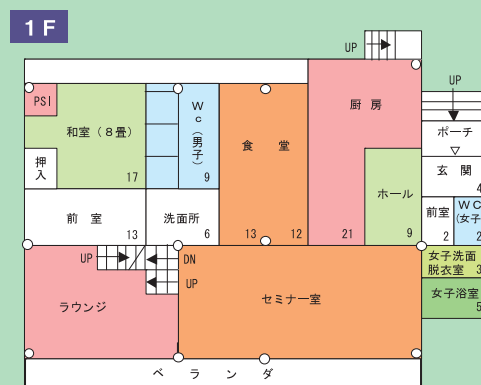
ひるぜんセミナーハウスの概要



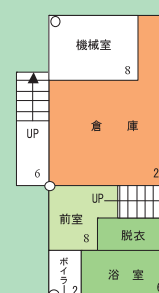
所在地：岡山県真庭市上福田 921 - 3
 (米子自動車道蒜山 IC から約 5 分)
 TEL 0867 - 66 - 3096

休館日：毎週水曜日及び年末年始
 (12月29日～1月3日)
 休館日前日は宿泊できません

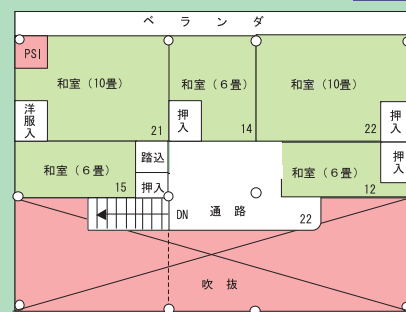
宿泊室 利用定員：17名
 和室 6畳 3室：各 2 名
 和室 8畳 1室：3 名
 和室 10畳 2室：各 4 名



施設内の配置図



2 F



宿泊室



セミナー室

食 事



ジンギスカン



朝食



周辺の観光：次のホームページを参照してください。

蒜山観光協会

<http://www.hiruzen.info/index.html>

蒜山高原ホームページ

<http://www.shok.co.jp/kawakami/index.html>

申込先：大阪大学総務部総務課総務係

〒565-0871 吹田市山田丘 1 - 1 電話：06 - 6879 - 7014 (内線 吹 3006)

e-mail：soutusoutusoumu@ns.jim.osaka-u.ac.jp

平成21年度適塾記念講演会

大阪大学及び適塾記念会では、緒方洪庵及び門下生の業績を顕彰するとともに、事業の一つとして毎年記念講演会を開催し、大阪における新しい学術、文化の成果をお伝えしています。今年度も多数のご参加をお待ちしております。

日 時：11月16日(月) 17:00～19:00

会 場：大阪大学中之島センター 10階 佐治敬三メモリアルホール
(大阪市北区中之島4-3-53 TEL 06-6444-2100)

主 催：大阪大学、適塾記念会

プログラム：

講演1「免疫についての自己とは？その可塑性」

大阪大学大学院医学系研究科長・医学部長

大学院生命機能研究科教授 平野俊夫

免疫なくしては、私たちは地球上で生きていくことは出来ません。免疫は天然痘やインフルエンザなどの感染症から守ってくれます。緒方洪庵は天然痘の予防接種を広めるのに多大なる貢献をしました。免疫は私たちの体を守ってくれますが、アレルギーや、関節リウマチなどの自己免疫病を引き起こし、体を破壊することもあります。免疫は“両刃の剣”の顔を有しています。免疫は自己と非自己をどのように見分けているのでしょうか？免疫にとって自己は絶対的なものでしょうか？私たちはガラスのような鋭利さと、もろさを有した免疫システムの上に生きているという現実が浮かびあがってきます。

講演2「日本史と世界史をつなぐ - 阪大史学の挑戦 - 」

大阪大学大学院文学研究科教授 桃木至朗

現在深刻な制度疲労により危機に陥っている歴史学と歴史教育を再建するため、大阪大学史学系では大胆かつ系統的な取り組みを進め、学界・教育界で脚光を浴びています。この取り組みをもとに、21世紀に歴史を学ぶ意義を、身近な日本の歴史の例を引きながら説明します。江戸時代の日本がもし鎖国をしていなかったらどうなっていたか、鎖国にはどんな意義があったのか、皆さんも考えてみましょう。

受講料：無料(定員190名)

お申込みはFAX・メール・お電話で受け付けております。

(FAX・メールによるお申込みは、お名前・ご住所・電話番号を必ずご記入ください。)

申込み先・問い合わせ先：大阪大学企画部広報・社会学連携事務局

TEL 06-6879-7151 FAX 06-6879-7156

E-mail kikousyagakurenkei@ns.jim.osaka-u.ac.jp

(企画部 広報・社会学連携事務局)



工学研究科・工学部がラジオ番組を開始

工学研究科・工学部は、昨年度に引き続き、10月11日(日)から来年3月までの半年間、高校生、受験生及び保護者を対象に、工学研究科・工学部の魅力をアピールするため、朝日放送ラジオ(100.8kHz)にてラジオ番組「どんなのかな？阪大工学部」を開始しました。

番組の内容は、工学研究科・工学部の教員による研究紹介のコーナーや、在学生等が現在の活躍分野や将来の夢を語るコーナー、研究室の生の声をお届けする突撃取材コーナー、教員らがリスナーの疑問に答えるコーナーなど、工学系学部への興味を引くものとなっており、工学系学部の志願者の増加につながることを期待しています。

初回の収録では、馬場章夫工学研究科長が出演し、「高校生の皆さんにアドバイスを」との要望に対し「おらかでのびやかな人になってほしい。そのことで視野が広い人になる。そのためには本を読んでください。そしていろいろな人の話を聞いてください。」と受験生へ熱く語りかけていました。



初回分の収録風景(右が馬場章夫工学研究科長)

(工学研究科・工学部)

障害学生支援室で「手話講習会」開催

障害学生支援室では、2002年度より毎年、啓発や教育の一環として、手話講習会を開催しています。今年も全11回の手話講習会が10月7日(水)から始まりました。今年度の受講生は学生20名。受講理由は、「自分の世界を広げたい」「マイノリティの権利保障に関心がある」「仕事で活かしたい」等、さまざまです。

講師を務めるのは、大阪聴覚障害者協会の中塚智雄氏です。中塚氏自身も、ろう者であり、日常的に手話を用いて生活しておられます。第1回目の冒頭は講習会を受講する上で知っておく必要のある注意事項を伝えるために手話通訳者が付きましたが、第2回目からは中塚氏の手話のみで講習会が進みます。受講者には、当事者を講師とした講習会を通じて、単に手話を学ぶだけでなく、聴覚障害を有する人たちの生活



講習会風景

について考え、ひいては、各自が学び取ったことを自身の生活や将来へと活かすことが期待されています。今後の手話講習会の様子については、障害学生支援室のHP (<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/campus/shien/>) に掲載される予定です。

なお、今年度の手話講習会は、学生支援体制の整備に伴い設置された「学生支援コミュニティスペース」(豊中キャンパス学生交流棟2階)で実施されています。今後、学生支援コミュニティスペースでは、学生のコミュニティ形成を基軸とした支援活動が展開される予定です。

(学生部 キャリア支援課)

第22回学生生活調査にご協力を!

学生生活調査は、本学学生の生活状況や要望を把握し、その結果を福利厚生・課外活動の充実や改善及びこれらの施設の整備等に役立てるための基礎資料とするものです。

本年度で第22回を数え、ほぼ4年毎に実施しております。今回は学部学生・大学院生全員を対象とし、11月2日(月)～30日(月)の間KOANを利用して調査を行います。学生の皆さんのご意見を伺う絶好の機会となりますので、「学生生活調査」へのご協力をよろしくお願いいたします。

なお、回答者のうち、応募いただいた方の中から100名様に生協で利用できるお買い物券2,000円分をプレゼントします。

大阪大学学生生活委員会

問合先 学生部学生支援課総務係

06 - 6879 - 7162

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/general/2009_11_30



(学生部 学生支援課)

訂正とお詫び

阪大NOW No.111(2009年6月号)の掲載内容の一部に誤りがありましたので、下記のとおり訂正するとともにお詫びいたします。

・P33「記念講義」の藪 司郎教授の本文中

13行目 (誤) 剰余 $r \text{ 市 } idu$ (正) 剰余 $r \text{ ́ } residu$

海外拠点短期語学研修最前線（前編）

大阪大学サンフランシスコ教育研究センター長
谷 本 親 伯（たにもと ちかおさ）

2009年8月現在、サンフランシスコ教育研究センターでは、3種類の短期語学研修プログラム（「工学英語」、「一般英語」、「歯学英語」）を取り扱っている。大学周辺の環境が大きく変化する中、「国際化時代への対応」と「大学の教育の質の保証」の視点から、大学における語学、特に、英語教育に関して、実践に基づく所見を報告したい。

まず今回は、工学英語コース、一般英語コースについて報告する。

工学英語（大学院生対象）

「工学英語」(Technical English) と称しているが、正しくは、「理工学系大学院生のための海外研究発表研修コース」である。その目的は、海外あるいは国際学会等の集会での英語による研究発表に際し、「分かりやすく印象深い発表」を行うためのスキルを学ばせることにある。2003年に開始し、7年度にわたって約260名が受講している。周知のごとく、理工系の研究発表に際し、国際共通言語である英語は、可能な限り、簡潔で、正確であることを旨としている。すなわち、複雑な英語表現を避け、単純に徹して、正確な英語を学ばせることにある。

また、研修期間は、夏期休暇中の4週間と限定しているので、この短期間に、どのような課題に焦点を当てるか、その選択が、この研修の教育効果を左右する。

過去の研修受入れ機関は、University of California at Berkeley/ UCB (2003)、University of California at Santa Barbara/ UCSB (2003-2007)、University of Washington/ UW (2006-2009)、University of California at Santa Cruz/



UCSC (2008)、University of California at Davis/ UCD (2009) の Extension である。研修生の派遣にあたり、当該年の3月末までに、研修内容の詳細を協議し、「大学対大学」としての契約を締結する。研修成果については、研修の最後に行う「発表会」にて、一人10 - 15分のプレゼンテーションを行わせ、パワーポイントスライドの明瞭性・発音・説明内容・発表の速度などを確認する。加えて、発表直後に、他の研修生および教師からの質疑を受け、応答させる。発表内容は、受講生の任意選択を基本とし、多くが、自分の従事する研究内容に関連した発表を行っている。

また、受講生の所属する研究科は、工学研究科・基礎工学研究科・情報科学研究科が中心であり、生命科学・情報工学・電気電子工学・機械工学・材料工学・生物/化学関連工学・環境工学の分野を専攻する者が多い。

研修当初は、英語での説明内容の理解度を確認するため、簡単な表現に対して、応答させ、聞き取り (Listening) や発音 (Pronunciation) が中心となる。受講生は、単語ごとの理解で戸惑っている感じが感じられるが、1週間を経過すると、語句や文体としての「単語の集合」の意味を把握してゆく。活きた英語に触れ、これを理解する姿勢が見て取れる。また、聞き取り能力が向上すると、教師とのやり取りも積極的に行うようになり、これに連れて、発音もイントネーションも相手に通ずるように改善される。研修の後半 (2週間経過後) は、学術誌の内容理解や英作文 (Technical Writing) の比重が高くなり、文章を続けて読み上げる場合の円滑度を磨くことになる。日本語と英語での表現方法の差異についても理解できるようになる。第4週は、最後に自分が行う発表の内容をまとめ、スライド作

成と発表の練習を行う。同時に、疑問点を教師に質問し、英語表現の適性を確認する。

研修当初と最終段階を比較すると、わずか4週間であっても多くの研修生の能力は、見違えるばかりに改善されている。流れを感じさせる英語表現を身につけてきていることが理解できる。

この「工学英語」の実施に当たっては、学生に過度の財政的負担を与えないように留意されている。研修生の所属する研究科や研究室からの各種の奨学金・補助金を利用して、負担額の減額を図る工夫を重ねている。研修生毎の個別の取り扱いをすべて同一とすることには、困難な面が残され、毎年異なるが、概ね10 - 100%の補助が実施されてきた。

一般英語（学部生対象）

2008年度より開設した「一般英語」(General English)は、学部生対象のプログラムである。これを始めた理由は、大学院生を対象とする「工学英語」のような専門分野での英語習得以前に、英語の基礎を学部時代に磨く機会があれば、大学院で学ぶ専門英語がさらに効果的に習得できるとみなすことにある。いわば、「工学英語」だけでなく、「ビジネス英語」や「法律英語」などの専門分野を前提とする英語の学習には、すべてに共通する英語の基礎の習得が不可欠であるからである。これは当然のことであるが、総じて、日本の大学生の英語力が国際比較の中で、相当低いという事実から考えれば、大学の英語教育においても、教育の質向上を徹底させることが不可避である。

プログラムの内容については「一般英語」の性質から、各種の語学研修機関が提供する既成のプログラムを利用することになる。ただし、研修期間中、定期的に、たとえば、週に1, 2回、研修の参観を行い、参観者が明らかに、「自大学の学生に対する研修内容・方法としては不適切」と判断した場合に、研修内容・方法に注文をつけるようにしている。2008年度の場合は、開始当初に、参観者（当センター2名）が不適切な点をいくつか指摘し、改善を要求し

て、これが認められた。大学が関与して、語学研修を世話する限り、引受機関や担当教師に抵抗感があっても、改善に対する根拠を示して、これを求めることは当然のことと考える。

実際に、参観を重ねているうちに、いくつかの問題を感じる。研修を授受する両者に起因する。その背景に、日本からの研修生が、日本での慣習と現地環境の理解不足から、なかなか自分の意思を伝えられない、すなわち、Yes/Noを明瞭に答えられず、また、教師の方も、当初のクラス配属のための評価において、全体に過少評価を下して研修に入る傾向が認められる。研修の準備段階で、より適切な情報交換が求められる。したがって、既成のプログラムを利用する場合は、事前に、研修希望者の事前評価を行った上で、派遣することが望ましい。本学での英語担当教師の負担が増えるが、大学生の英語力向上のためには必要な対応であろう。

この「一般英語」研修参加者の実体は、ほとんどが学部1, 2年生である。数か月前には、高校生であったり、受験のために努力した英語学習の気運が濃く残されていることと同時に、大学入学により大きく目を開いた時機でもあり、海外での英語研修に新鮮な意欲を示している点を特筆したい。2008年は初年度でもあり、サンフランシスコセンター側でも可能な限り、頻繁に授業参観を行い、休日も、周辺大学のキャンパスツアーに案内するなど尽力した。研修生がグループとして、よくまとまっていたこともあり、研修後においても連絡が続いたことは、いい評価を得た証とみなしている。

今年の研修は、未了であり、研修引受機関からの評価や研修生からの研修レポートも未確認であり、現時点ではコメントすることができない。全体の印象としては、昨年に比べ、語学研修だけではなく、米国の文化や風土に触れたいとする学生が増え、行動に多様化が認められた。逆に言うと、語学研修に対する意欲や集中度の低いものが認められた。要は、「4週間」という限定された時間の利用の仕方にある。

（次号へ続く）



メキシコ国立自治大学

Universidad Nacional Autónoma de México



通称UNAM（ウナム）。1551年に（スペイン）王立教皇メキシコ大学として創設され、1910年にメキシコ国立大学となりました。学生と教職員などを合わせると約30万の人員を擁するスペイン語圏最大の総合大学です。首都メキシコ市の南部にある大学都市は吹田の万博公園並みの広さで、敷地全体が世界文化遺産に登録されています。数多くの学部・研究所のほか、外国人語学学校、オリンピックスタジアム、劇場、映画館、ラジオ局などを抱え、また本部棟や図書館の壁はダビド・アルファロ・シケイロスやファン・オゴルマンといった世界的に著名な芸術家の壁画で飾られており、キャンパス全体が単なる研究教育機関の域をはるかに超えた文化拠点として機能しています。

文理共に研究レベルは極めて高く、外交官アルフォンソ・ガルシア・ロブレス、詩人オクタビオ・パス、化学者マリオ・モリーナと三人のノーベル賞受賞者を輩出しました。南北アメリカ大陸ほか世界各国から多くの留学生を受け入れており、阪大生以外にも多くの日本人学生が在籍しています。

メキシコ国立自治大学と大阪大学は、2007年10月に全学レベルでの大学間学術交流協定を締結しました。

ウェブサイト：<http://www.unam.mx/>



編集後記

本号から編集を担当することになり、本学関係者の学内外での多岐にわたる活躍を改めて感じました。

また、本号のトピックスとして巻頭と巻末で紹介しました「水都大阪2009」、「WWW（ワールドワイドビューズ）」では、大学と社会との関わりを改めて感じさせてくれるイ

ベントでした。

みなさんの活躍に刺激を受けながら、大学の構成員として、地域や社会、世界との関わりにより一層の関心を持ちながら職務にあたりたいと思います。

（柿木）

混声合唱団

学生と社会人との上質なハーモニー



私たち大阪大学混声合唱団は今年7月に関西大学混声合唱団ひびきとパナソニック合唱団と共に演奏会を開催しました。

阪大混声としては初めての社会人合唱団を含めての演奏会で、パナソニック合唱団さんから「こんなにも元気な社会人がいるのか!」と新しい刺激を受け、練習に励んできました。演奏会の運営面でも会議の仕方や人の動かし方など、いろいろなことを学ばせて頂きました。



関西大学での合同練習



コンサート運営メンバー

演奏会には800人を超えるお客様が来られて、大成功に終わりました!!

阪大混声にはいろいろな人がいます。本当に合唱が好きな人(いわゆる合唱人)、わいわい遊ぶことが好きな人、笑いを追求し続ける人も。いろいろな人がいる中で、練習を指導する指揮者、パートリーダーが団員を演奏会という大きな目標に導く。それが阪大混声の良さだと思います。

その大きな目標である今年の「第51回定期演奏会」は12月23日(水・祝)午後5時30分から伊丹市立文化会館いたみホールにて行います。今年は特別に合唱にあまりなじみのない方でも楽しめるクリスマスステージを企画しています。一年間の集大成として、来て下さったお客様に最高の演奏をお届けできるよう尽力しますので、どうぞ会場までおこし下さい。

部長 秋山浩太(人4年)

コメント

大阪大学混声合唱団は総勢80名、賑やかに楽しく活動しています。新入部員は随時募集しており、いつでも見学可能です。1年を通して大小さまざまな演奏会を開催しておりますので皆様ぜひご来場ください。



練習場所: 共通教育棟C棟など(学外もあり)

練習日時: 平日の昼休みに毎日みんなで歌っています。水曜日の17:50~19:50と、土曜日の13:00~16:40に本練という演奏会に向けた練習があります。

部員数: 80名

連絡先: 秋山浩太(部長)

akiyama4185@yahoo.co.jp

トピックス

World Wide Views in Japanを開催 ～日本からのメッセージ:地球温暖化を考える～



2009年12月に、デンマークのコペンハーゲンで「COP15（第15回気候変動枠組条約締約国会議）」が開催されます。WWViewsは、COP15の政府間交渉、及び、今後の世界の気候政策の行方に影響を与える機会を、市民に提供することを狙いとして企画されました。

WWViewsの中心は、9月26日に、世界38ヶ国44カ所で同時に開催された「世界市民会議」です。そこでは、各会議100人の市民が、COP15で交渉される論点のいくつかを、ともに議論しながらそれぞれ見解を形作り、投票を行いました。世界各国・各会議場すべてが、この同じ形式で、地球を西回りに、それぞれの国で行ったのです。

日本会場となった京都市勤業館みやこめっせでは、前日には驚田総長より、当日にはコミュニケーションデザイン・センター小林傳司教授（実行委員長）より参加者への歓迎の挨拶を行うとともに、福山哲郎外務副大臣よりご挨拶を頂きました。副大臣からは、「おそらく私は交渉団の一人になりますので、みなさまのまとまったご意見をコペンハーゲンに向かう前に承ることを、この場で約束をさせていただきたいと思います。」との力強いメッセージをいただきました。



今回の会議は、これまで科学の専門家と各国政府によってもっぱら議論され、物事が決められてきた地球温暖化問題に、一般の市民が意見を届けるための世界的な実験でした。とくに日本では鳩山政権が誕生し、先日の国連総会での首相演説に見られるように、温暖化問題に対する取り組み姿勢や国際的な立場に大きな変化が現れつつあります。会議の参加者の方々も、このような「新しい風」、その予感の中で今日の会議を迎え、議論を尽くされたのではないかと思います。

加えて今回の会議には、温暖化問題に限らず、一般の市民が、社会の問題についてともに考え、議論し、その声を政策決定の場に届けるための「方法」があることを世の中に示し、またその方法をさらに改善していくための社会実験という意義もありました。その効果の検証や評価は、これからの課題ですが、その成果が必ずや今後の日本社会で活かされるべく、努めていく予定です。

当日の結果については、World Wide Views in Japan ホームページ（<http://www-japan.net/>）にてご覧頂けます。

（コミュニケーションデザイン・センター）

阪大NOW No.113 2009 10月号

2009年10月20日発行

編集 大阪大学広報・社会学連携室

発行 大阪大学企画部広報・社会学連携事務室 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-1

TEL: 06(6879)7017 FAX: 06(6879)7156

ホームページアドレス <http://www.osaka-u.ac.jp/>

「阪大NOW」へのご意見、お問い合わせ、記事の提供等がありましたら、下記までお寄せ下さい。

E-mail: kikousyagakukouhou@ns.jim.osaka-u.ac.jp